

1. 映画・映像・写真・放送

1945年～1954年

日本映画社撮影班、被爆後の広島での撮影開始。45, 9, 25

GHQ 原爆記録映画撮影中止とフィルムの提出を指令、米戦略爆撃調査団の委嘱で長崎の撮影を続ける。45, 10, 19

日本映画社、原爆記録映画長崎分撮影完了。GHQ、ネガをふくめすべてを押収。映画関係者、極秘にプリント一本を保管。46, 2, 15

広島県安芸郡倉橋島の特攻基地から海軍少尉が部下に命じ撮影した**原爆のキノコ雲の写真が中国新聞に掲載**される。46, 8, 1

米ABC放送が「広島エピソード」としてジョン・ハーシー氏「ヒロシマ」の登場者その後などを放送。47, 8, 5

NHK広島中央放送局が平和祭の様を米に実況中継。戦後初の国際放送。47, 8, 7

日本共産党中国地方委員会機関紙「平和戦線」に原爆被爆写真6葉掲載。50, 6, 9

原子爆弾発明から広島投下までを描いた**米MGM映画「始めか終わりか」**全国で有料試写会。50, 8, 10

「長崎の鐘」(新藤兼人監督 松竹映画)が完成。50, 9, 19

京都大学同窓会「総合原爆展」。京都駅前丸物百貨店(現在の京都近鉄百貨店)で。原爆とその被害について日本で始めての総合展示。その後、各地で開かれる。

日本映画社撮影「原子爆弾の効果」の一部を朝日ニュースとして初公開。52, 7

ラジオ東京が**映画「原爆の子」**を放送劇化して電波に乗せる。52, 8, 6

映画「原爆の子」(北星映画配給)広島市で試写会。入場料100円。52, 8, 6 九月から全国上映

日本映画社撮影「原子爆弾の効果」の抄録をアサヒグラフ8月6日号に発表。四回にわたって増刷。52万部。52, 8, 6

岩波書店 **岩波写真文庫で「広島～戦争と都市」**を出版。52, 8, 6

映画「原爆の子」封切。52, 9, 24

米紙ライフが「未検閲の原爆惨事」と題し広島・長崎の原爆特集。52, 9, 29

カンヌ国際映画祭でグランプリ候補だった**「原爆の子」**が受賞を逸す。フランス映画「恐怖の報酬」がグランプリに。53, 4, 29

日教組製作の映画「ひろしま」(日教組と北星映画の共同配給)封切。53, 10, 7

原子爆弾をテーマにした**サスペンス英映画「戦慄の七日間」**封切。54, 3, 11

米政府民間防衛局がマスコミをとおし52年11月、マーシャル諸島エニウエトク環礁でおこなった初の米水爆装置実験の記録映画(28分)を公開。長さ1,6キロ、幅400メートルの島は爆発とともに吹き飛ばされ、あとは海中に直径1,6キロ、深さ53メートルの穴だけが残った。54, 4, 1

映画「原爆の子」がチェコスロバキアのカルロビ・バリ国際映画祭で平和賞受賞。54, 7, 26

総評など中心に製作していた**原水爆解説記録映画「永遠なる平和を」**完成。54, 8, 6

原爆映画「君死に給うことなかれ」(東宝)が完成。監督丸山誠治、出演司葉子、池部良ら。54, 9, 8

1954年11月3日、**アメリカ映画「原子怪獣現わる」**にヒントを得て製作された、第1作**「ゴジラ」**が公開される。身長50mの怪獣ゴジラは人間にとっての恐怖の対象であると同時に、「核の落とし子」として人間が生み出した恐怖の象徴として描かれた。監督本田猪四郎宝田明、志村喬、河内桃子 公開54.11.3

1955年～1964年

水爆の脅威下に生きる人間の姿を描いた**映画「生きものの記録」**完成。黒澤明監督、三船敏郎主演。東宝作品。55, 11, 22

日本原水協の初の**原爆記録映画「生きていてよかった」**監督亀井文夫の有料試写会。56, 6, 28

原爆ドキュメント映画「生きていてよかった」のフィルムを原爆乙女の会「シオン会」が平和愛好のチャップリンに送るための資金募金を開始。56, 6, 26

原爆ドキュメント映画「生きていてよかった」広島市で二週間上映。各配給会社は全国主要映画館での上映を断る。56, 7, 25
このため全国に上映運動ひろがる。9月までに425ヵ所

英映画協会が**「原爆の子」**を1955年世界最優秀映画の国連賞受賞作品に決定。「この映画が国連憲章の精神を十分表している」が受賞理由。56, 2, 12

西ドイツで上映中の**「原爆の子」**が反戦映画として軍当局に没収される。57, 2, 6

米大使館が映画「平和の哨兵」(11分)を公開。アイゼンハワー大統領が1955年7月のジュネーブ四国巨頭会談で提案した軍縮管理のための「空中査察」の方法を紹介。4月中旬から全国で一般公開へ。56, 3, 30

「長崎の子」(共同映画社製作)の試写会が長崎国際文芸会館でおこなわれる。57, 7, 16

「純愛物語」(原爆症の恐怖を描いた東映映画 監督今井正 出演江原真二郎、中原ひとみ)上映。57, 10, 30

「世界は恐怖する」(放射能の恐怖を告発した記録映画 監督亀井文夫 日本ドキュメントフィルム社、三映社)広島上映。57, 12, 28 これのインド上映にネール首相が特別の便宜。57, 10, 28

朝日放送の「ABC劇場」で梶山季之作の「ヒロシマの霧」が電波に。58, 3, 20

土門拳が写真集「ヒロシマ」を研光社から出版。58, 3

「第五福竜丸」(監督新藤兼人 近代映画協会・新世紀映画の共同製作)特別試写会 59, 2, 8

「渚にて」スタンリー・クレイマー監督、主演グレゴリー・ペック エバ・ガードナーアンソニー・パーキンス 60, 4, 4

広島市が広島平和記念都市建設法施行十周年を記念して製作していた記録映画「平和記念都市建設十年の歩み」が完成。上映時間 20分 60, 6, 14

西ドイツのジャーナリスト、ロベルト・ユンクが原爆の傷跡を撮影したテレビ映画「灰燼の光」が西ドイツ、フランスで放映され好評。61, 1

東宝が核戦争の恐怖を描いた「世界大戦争」を製作。監督松林宗恵。61, 9

東松照明「ナガサキ」、第二回国際報道写真展に入賞。62, 8, 2

ジュネーブ軍縮会議の各国代表がスウェーデンのエルビン・ライザー、トーレ・ショーベレイ製作の記録映画「戦争の顔」を鑑賞。63, 4, 5

NHK、原爆孤児と歩み続ける中野清一、千歳夫妻の人間像を描いた「原爆の子らとともに」を放映。63, 11, 9

原爆乙女の青春を描いたドキュメンタリータッチのドラマ「私は踊り続ける」(名古屋テレビ制作)がNET系で放映。芸術祭参加。64, 11, 14

1965年～1974年

「かあさんと呼ばれた」広島ロケ始まる。広島子供を守る会の11年間の運動の歩みを記録した山口勇子さんの本の映画化。監督今井正。65, 3, 13

原爆で家族を失った広島市出身の写真家井上清司「素顔の女流写真展」。65, 8, 6

NHK 教育テレビ「日本回顧録 ヒロシマ～昭和20年8月6日」を放映。被爆当時の秘話を未公開フィルムを織り交ぜ紹介。65, 8, 6

NHK テレビが広島の歌人正田篠枝さんの半生を描く「耳鳴り」を放送。65, 11, 28

「博士の異常な愛情」米コロムビア映画。スタンリー・キューブリック監督。65, 10

「広島1966」 広島の被爆者とプロダクション「新制作集団」の共同制作。66, 6

長崎市が保管している被爆直後の実写フィルムが初めて一般公開。原水爆被災白書をすすめる長崎市民の会(木野普見雄代表委員)が県児童青少年センターで行った「被爆体験を考える集い」で上映。このフィルムは昭和20年9月、日本映画社が撮影したがGHQに没収され、スタッフが1部をこっそりコピーしていたもの。66, 7, 30

米軍に没収されたまま20余年「幻のフィルム」といわれていた原爆記録映画が、米政府から日本政府に返還された。原爆投下直後、理化学研究所の故仁科芳雄博士らを中心にした学術研究会議が日本映画社の協力で約6ヶ月にわたって撮影。全19巻約4500メートル(映写時間2時間45分)の長編。第1巻から第9巻までが広島編、第10巻から18巻までが長崎編、第19巻がエピローグ。「原子爆弾の影響—広島、長崎」の仮題がつけられていた。21年5月、完成と同時に没収され、そのまま米本国に「極秘資料」として持ち去られ、これまで公開されなかった。67, 11, 9

この原爆記録映画の扱い方について、文部省は1月25日「学術研究用としてテレビなど一般にも貸し出す。ただし人権にかかわる場面はカットして公開する」との方針を決めた。長崎市は国際文化会館で試写会を催し、テレビでも正午から全国に放映された。映画は放射能、熱線、爆風など広い角度から人体や生物、建築物に及ぼした影響をとらえている。68, 4, 20

「千曲川絶唱」脚本 松山善三、監督 豊田四郎、出演 北大路欣也、星由里子、平幹二郎 67, 2

「河・その裏切りが重く」ATG配給の映画 脚本・監督森弘太 出演灰地順、富田公子、佐藤慶。67, 2

長崎に原爆が投下された直後、広島・長崎新型爆弾学術調査団の一員として長崎の惨状をカメラに収めた元長崎文理大学地

質学講師、長岡省吾氏らの貴重な写真ネガ約 200 枚が長崎原爆被災者協議会の倉庫で見つかり、この日、関係者が諸谷長崎市長に手渡す。67, 7, 17

英 BBC 放送が広島県芦品郡協和村の被爆者下江武介さんのイギリスでの語り部活動を描いた「ヒロシマからの来訪者」を放送。67, 8, 4

ギリシャの詩人パナジオトロプスの詩にガエタノ・ズフレが曲をつけたカンタータ「ヒロシマ」がNHK・FMで初演奏。67, 8, 6

広島テレビが制作した芸術祭参加ドラマ「百日紅の花」を放送。広島に住む被爆者親子をモデルに 22 年目のヒロシマを描く。脚本松山善三、出演杉村春子、木村光江。67, 10, 4

「記録なき青春」監督阿部孝男 出演田村正和 真理アンヌ 68, 4

写真家土門拳 東京・ニコンサロンで作品展「ヒロシマはつづいている 憎悪と失意」。68, 6

広島市横川町の医師松原博臣さんの 8 ミリ映画「ヒロシマ」が第八回アマチュア・パリ国際映画祭のルポルターージュ部門で一位入賞。原爆で両親が行方不明になった一人の女性が 20 数年たった街を両親を探してさまよい歩く姿を通し広島を描く。68, 6

プラハ国際テレビ祭・ドキュメンタリー部門で広島テレビ制作「人間、そのたくまじきもの」のディレクター杉原萌が最優秀監督賞を受賞。作品は原爆三部作の一つ。二年間にわたって広島の一被爆者の家族を追跡、その日常を通して人間のたくまじさを描く。68, 7

「魚が出てきた日」米 20 世紀フォックス映画 監督ミカエル・カコヤニス原爆を積んだ爆撃機墜落とその後の関係者の行動を描く。68, 9

「ヒロシマの証人」監督斎村和彦。68, 10, 15

広島テレビのドキュメンタリー「朝顔」(構成松山善三)が芸術祭奨励賞を受賞。68, 12, 19

記録映画「広島・長崎における原爆の影響」のカット部分とはほぼ同一場面のスライドが核禁広島県民会議代表者会議の席上初めて公開。文部省が一般公開の際にカットした人体場面を中心にした 67 コマ。元日本映画社スタッフが映画と同じ場面をスチール写真に撮影。ノーカット上映運動のなかでスライド公開に踏み切る。原水禁三大会で順次公開へ。69, 8, 1

記録映画「広島・長崎—1945 年 8 月」(二月に米で初公開されたもの)をTBS系が全国放映。1967 年米から返還され文部省がカットした映画「広島・長崎における原爆の影響」の人体場面も復活。70, 3, 18

記録映画「広島・長崎—1945 年 8 月」をTBSが反響に応じて再放送。70, 4, 10

近代映画協会製作「触覚」監督・新藤兼人、出演・乙羽信子、大丸二郎、太地喜和子。70, 6

原爆写真集「ヒロシマへの回帰」(RETURN TO HIROSIMA)米の童話作家ベティ・J・リフトンさんが米とカナダで同時出版。70, 7

記録映画「ヒロシマ原爆の記録」。広島市や地元報道機関が被爆 25 周年記念で製作。日本映画新社。70, 8, 1

旧海軍呉鎮守府の調査団が撮影した被爆二日目の爆心地の写真 16 枚が見つかる。調査団長だった鎌倉市の三井再男さんが保存。70, 8

広島原爆投下の数分後に撮影されたキノコ雲の写真が見つかる。波田千里さんが爆心から約 3, 8 キロ離れた東本浦町の自宅裏庭から撮影。日本人が撮影した原子雲の写真は 5 枚目。70, 8

記録映画「ヒロシマ原爆の記録」の英語版が完成。70, 9, 25

記録映画「ヒロシマ原爆の記録」が第十四回日本紹介映画コンクールで銀賞。70, 10, 15

原爆投下 2 分後、1 時間後、4 時間後の連続写真が広島市段原中町、電気器具商松重三男さん方から見つかる。広島県安佐郡安古市町からの撮影で原子雲を北側から撮影したものは初めて。日本人が撮影したキノコ雲は 2 分後の広島県安芸郡海田町、4 分後の同府中町、5 分後の呉市、広島県本浦町からの四枚しかなく松重さんののが 5 枚目。71, 4, 18

広島県被爆教師の会(石田明会長)がニューヨークの世界法財団から「メガトン時代」とタイトルの原水爆関係のスライド 124 コマを入手。1966 年 4 月 7 日にスペイン沖で引き上げられた水爆の写真、ビキニ水爆実験で被災したマーシャル諸島住民の写真など。71, 7, 28

NBC 長崎放送が放映(2 月 16 日)した「フランケンシュタイン対地底怪獣」(65 年、東宝作品)に対し、長崎県被爆教師の会など長崎の原爆 5 団体が「原爆で誤った印象を与える」と同社に抗議。72, 3, 16

記録映画「私たちと戦争」(楠木徳男監督)の試写会が東京勤労福祉センターで。72, 4, 3

中国新聞社が創刊 80 周年記念事業として記録映画「ヒロシマ原爆の記録」の英語版をニューヨークタイムズやブラウダなど世界 13 カ国の 14 新聞社に贈呈。被爆新聞社として原水爆禁止と世界平和確立への願いを込める。72, 5, 5

写真家佐々木雄一郎さん、被爆直後からの広島の写真 230 枚を収めた写真集「広島の日記」を自費出版。10 万枚のネガの中から選ぶ。73, 5

旧陸軍船舶軍医部が作成した被爆直後の記録写真集「広島市戦災記録写真—昭和 20 年 8 月 陸軍船舶軍医部」を放射線医学総合研究所の御園生圭輔所長が原対協に寄付。写真は 54 枚。73, 6

原爆裁判を通して日本の戦争責任や韓国・朝鮮人被爆者、被爆二世の苦悩を描いた映画「人間であるために」が完成、東京・読売ホールで初上映。監督、脚本・高木一臣、出演・伊藤雄之助、中野誠也 74, 4, 24

中国放送が米国立公文書館から被爆直後に撮影した「医学的狀態」と「爆風の効果」の 16 ミリカラーフィルムを入手し、放映。74, 8, 15

大阪府原爆被害者団体協議会の会員ら 30 人が映画「ノストラダムスの大予言」で被爆者を傷つける場面があると配給元の東宝関西支社に抗議。74, 12, 18

この問題で東宝が大阪原爆被害者団体協議会の主張を認め、新聞に謝罪広告を掲載へ。12, 20

1975年～1984年

原水爆禁止映画運動推進委員会や日本原水協などが製作していた原爆記録映画「ノーモア・ヒロシマ」(板谷紀之監督)が完成。広島市の平和記念館で試写会。カラー、20 分。被爆者の 30 年間の苦しみや被爆二世問題などを女優の磯村みどりさんがルポ。東京でも試写会。75, 5, 14

長崎市が米国立公文書館から送られた米戦略爆撃調査団撮影の 16 ミリカラーフィルム 12 巻を上映時間 30 分のダイジェスト版「長崎原爆の記録」に再編集する作業に取りかかる。75, 5 75, 7, 9 初公開

長崎市が製作していた被爆 30 周年記録映画「誓いを新たに」が完成し試写会。16 ミリカラー、20 分。平和記念式典など世界平和記念旬間行事を記録。75, 11, 5

映画「はだしのゲン」の試写会が、銀座のヤマハホールで。山田典吾監督、中沢啓治原作。主演佐藤健太、三国連太郎。一般上映は 2 月 21 日から。76, 1, 10

「ふたりのイーダ」(松谷みよ子原作)が松山善三、山田洋次の共同執筆で映画化へ。76, 1, 29

45 年 8 月 18 日ごろの広島駅周辺を撮った写真 2 枚が、広島市の佐渡次郎さん方で 31 年ぶりに発見。76, 4

広島平和教育研究所と広島映画センターが原爆映画を集めた「広島平和教育映画ライブラリー」開設。「原爆の子」(1952 年)、「ひろしま」(53 年)、「千羽鶴」(58 年)、「ヒロシマの証人」(68 年)など 13 本。76, 4

この記念上映会で原爆映画では最も古い「原爆の子」と、東京大空襲を扱った「猫は生きている」を上映 76, 6, 27

広島平和教育映画ライブラリー(田辺昭太郎事務局長)が全都道府県に平和教育映画ライブラリーの設置を呼びかけ。79, 7

1975 年 8 月から製作が進められていた日本、ポーランド初の合作映画「灯は生きていた」(阿倍野人監督)が広島で初公開。

被爆二世とアウシュビッツの経験がある恩師を持つポーランド女性の悲恋物語 76, 6, 12

広島で被爆した横浜市在住の黒川万千代さんと関千枝子さん姉妹が写真集「原爆の碑—広島のことろ」を出版。85 枚の写真収める。76, 8, 1

長崎市が作製中の写真集「ながさき原爆の記録」が完成。1969, 72, 73 年の 3 回にわたって刊行したものを体系的にまとめた。76, 5, 11

1975 年、東京—広島間を歩いた日本原水協の国民平和行進を記録した映画「歩く」(カラー、34 分)が完成板谷紀之監督。76, 6, 23

広島でロケ中の映画「ふたりのイーダ」のロケ地として宇品造船金輪 Dock が敷地や施設の撮影を拒否。「シナリオに問題は無いが、原爆の映画に本社がとりあげられることに抵抗がありお断りした」。76, 9, 10

映画は 10 月 20 日完成。東京・ヤマハホールで試写会

東ドイツで開かれていた国際ライブチヒ記録・短編記録映画週間で、「生きる—その証のために」(脚本・監督秋吉宣子さん)が優秀賞の「金ハト賞」を受賞。原爆症に苦しむ若い教師の生きる勇気を描く。76, 11, 27

映画「はだしのゲン(第二部)涙の爆発」山田典吾監督 広島で一般公開。77, 3, 12

東京都立小平高校の映画研究同好会が製作した原爆 8 ミリ映画「ヒロシマ」「76 ヒロシマ」が広島市で初上映。77, 3, 17

島田興生写真記録集「ビキニ マーシャル人被爆者の証言」出版。77, 6, 1

ブルガリアのバルナで開かれている第七回国際赤十字映画祭で、胎内被爆女性の 30 年を描いた「生きる」(秋吉宣子監督)が短編部門のグランプリを受賞。77, 6, 27

写真集「ヒロシマは生きていた 佐々木雄一郎の記録」出版。毎日新聞広島支局 77, 7

被爆 7 日目の惨状を撮影した写真を広島市仁保町 2 丁目の医師大橋完造さんが原爆資料館に寄贈。77, 8

原爆投下直後の長崎を記録し続けた写真家、故小川虎彦さんの妻ヒロさんが、原爆記録写真 221 枚をガラス原板とともに長崎市に寄贈。77, 10, 31

長崎北ライオンズクラブが米戦略爆撃調査団の撮影したフィルムをもとに 16ミリカラー映画「長崎原爆の記録」を完成、長崎市に贈る。77, 11, 6

広島市高陽町上深川の空博行さん方で、被爆後 8 ヶ月の広島市中心部を撮影した写真の原板 22 枚が見つかり、原爆資料館に寄贈。77, 12, 14

「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」(松浦総三代表)の被爆写真集「広島・長崎一原子爆弾の記録」が完成。写真 620 点、被爆者の書いた絵 120 点を収録。写真の 90%をオリジナルネガから焼き付け、未公開写真も約一割。日本語版と外国語版(英、仏、エスペラント)で作成し買った人は日本語版を手元に、外国語版を「贈る会」に寄付し各国に送る。78, 5, 25

「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」(松浦総三代表)事務局に米爆撃戦略調査団が撮影した被爆写真 76 枚が届く。同会が米公文書館で発見、複写を依頼。78, 6, 27

「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」(松浦総三代表)の被爆写真集「広島・長崎一原子爆弾の記録」の英語版 4000 部を核兵器保有 6 カ国の元首をはじめ計 65 カ国の平和運動団体などに発送。78, 11

「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」(松浦総三代表)が米戦略爆撃調査団が撮影した未公開の広島、長崎の写真を入手し、発表。同会の岩倉務代表幹事がワシントンの国立公文書館、陸海空三軍の写

真資料センターにある計 6,000 枚の原爆写真と 300 本の 16 ミリフィルムをチェック、560 枚を複写。うち 300 枚が広島分。79, 7

「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」が写真集「原子爆弾の記録～ヒロシマ・ナガサキ」を発行。80, 8, 5

森下一徹さんが写真集「HIBAKUSYA」を出版。78, 5, 10

土門拳の写真集「生きているヒロシマ LIVING HIROSIMA」築地書館 78, 8, 3

写真家福島菊次郎さんが 1946 年から撮りためてきた原爆被災者の写真を「原爆と人間の記録」として出版。社会評論社。収録写真 320 枚。「私が 30 年続けてきた原爆キャンペーンはこれで終わる。絶望をいくら積み上げてみたとして、一つの時代がそれを実質的に切り開こうとしない限りすべては徒労だ。というより、私はもうこの取材に疲れ、撮影を続けてゆく気力を失った・・・」。78, 8, 31

東広島市出身の映画監督長谷川和彦が原爆を作る男を主人公にした「太陽を盗んだ男」を製作へ。主役に沢田研二。79, 4

プロ野球巨人軍の張本勲選手の半生を描く韓国映画「闘魂 大打者張本勲」が広島でロケ。張本選手は広島市段原新町で被爆、姉の張点子さんを失った。79, 6, 8

反核アニメーション映画「ピカドン」が人気。9 分の短編。木下蓮三、小夜子夫妻の作品。79, 7

写真集「ヒロシマ 1945～1979」が出版。横浜市のカメラマン土田ヒロミさんの作品。「原爆の子」(1951 年出版)に作文を書いた 105 人と長田新氏の序文に引用されている 81 人の計 186 人を追跡し、うち 107 人の日常を撮影。79, 7, 23

瀬戸内海文庫創設の田中嗣三さんが、壊滅状態から復興期の広島の写真 800 枚と、同文庫が出版した「リビング・ヒロシマー生きている広島」「回顧 5 年・原爆ヒロシマの記録」などを広島県立図書館に寄贈。79, 10, 14

故マルセル・ジュノー博士が持ち帰った未公開を含む被爆写真 240 枚が広島へ。「第三の兵士」の翻訳者、丸山幹正さんがスイスの国際赤十字委員会で入手。79, 11

盛善吉さんが自主制作した映画「世界の子らへー原爆 1980 年、広島の人はいま」が完成。語り部の下江武介三の話に感動し製作。79, 12, 11

盛善吉さんが自主制作した映画「世界の子らへー原爆 1980 年、広島の人はいま」がタシケント国際映画祭で入賞。80, 5

山口放送の胎内被爆児を追った「聞こえるよ母さんの声が一原爆の子・百合子」がテレビ・ドキュメンタリー部門の芸術賞大賞を受賞。79, 12, 13

米の原爆テレビ映画「エノラ・ゲイ」について、「被害の実相が大幅にカットされている」と被爆者らが批判。80, 4

劇映画「はだしのゲン・第三部～ヒロシマのたたかい」(山田典吾監督)が完成。80, 5, 16

原爆孤児らがたくましく生きる姿を描く児童映画「青葉学園物語」(大沢豊監督)の製作発表会が広島市で開かれる。80, 6, 13。

80, 11, 19 完成。試写会広島市公会堂に出演した市毛良枝、鈴木瑞穂らが出席。米爆撃機 B29 元機長ニール・フィリッツパトリックが被爆直後の「黒い雨」の中、広島を撮影したと中国新聞記者に語る。「広島壊滅の無線を傍受し、進路を変えて広島市上空を 20 分にわたって旋回、約 270 メートルの低空から写真撮影した」。広島市中心部と観音、江波方面を撮影した写真が残っているが、当日撮影には疑問も。80, 8, 4

長崎県と長崎市が共同企画した原爆アニメ映画「8 月 9 日長崎」が完成。80, 8, 4

「原爆記録映画 10 フィート運動」の広島呼びかけ人会が発足。荒木広島市長や宮沢知事ら県内 8 首長をはじめ労働、宗教、文化団体の 123 名が名を連ねる。80, 10, 14

「10 フィート運動」を繰り広げている「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」が、入手した未公開フィルムを東京で初試写。

81, 4, 27。このフィルムを広島で公開。「広島通信病院で治療を受けている片足切断の患者は私」と広島市の沼田鈴子さんが名乗り出る。81, 5, 11 広島原爆病院で上映会。写っている三人の被爆者の遺族が名乗り出る。81, 7, 4。「原爆一号」の吉川清さんが写っていることもわかる。81, 7, 8

原爆投下 3 ヶ月後の広島市内を撮影した写真 49 枚を、同市の岸本吉太さんが原爆資料館へ寄贈。81, 3, 23

広島、長崎両市と岩波映画製作所などが製作を進めている原爆映画「科学は考えるーヒロシマ・ナガサキの原爆災害」(仮題)のシナリオ完成。81, 3, 31

飯島宗一、相原秀次氏が写真集「原爆をみつめる」を刊行。岩波書店。81, 8

被爆カメラマン 20 人の 285 点を収録した写真集「広島壊滅のとき」発刊。1978 年 7 月に結成した「広島原爆被災撮影者の会」が編集、出版。81, 8

朝鮮人被爆者の記録映画「世界の人へ」が完成し東京で試写会。広島、長崎、神戸、北朝鮮でロケ。45 分の 16 ミリカラー。広島、長崎の朝鮮人被爆者 29 人の証言を中心に構成。81, 11, 4

「パラオに原爆記録映画を送る会」がベラウ(パラオ)共和国に原爆アニメ「ピカドン」を送る。81, 11, 28

被爆二世を描いた映画「冬のワイルドボーイ」が完成。製作の呉映画センターがテーマソングを募集。81, 12

広島市の平和記念館で試写会。平和プロダクション製作(内野谷典昭代表)。82, 1, 18

10 フィート運動の原爆記録映画第一作「にんげんをかえせ」が完成し、広島、長崎、東京で試写会。「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」が製作。画面に登場する被爆者の吉川清さんも車椅子で鑑賞、「現実はずっとひどかった」。82, 1, 21

10 フィート運動の原爆記録映画第二作「予言」(羽仁進監督)が完成、東京で試写会。「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」が製作。82, 4, 30

この映画が、ニューヨークで開かれたアメリカン・フィルム・フェスティバルでレッド・リボン賞を受賞。83, 6

10 フィート運動の原爆記録映画第三作「幻の全原爆フィルム日本人の手へ」が完成、試写会。82, 8, 11

10 フィート運動の原爆記録映画最終作「歴史ー核狂乱の時代」(羽仁進監督)が完成。83, 5, 26

英語版原爆記録映画「広島・長崎における原子爆弾の影響」広島市で前編初上映。1945 年 9 月 10 月に日本映画社が撮影後、米軍が接收。67 年に返還され、一部テレビ放映、人体編は文部省がカット。82, 1, 30

小川平二文相がノーカット一般上映に消極姿勢。「人権尊重の立場から慎重に」。82, 2, 19

「原水禁運動の統一をめざす静岡県民準備会」の青年メンバーが、第五福竜丸の水爆被災を扱ったスライド映画「死の灰」(82 コマ)を完成。82, 3, 2

中性子爆弾の惨状を再現した米短編映画(10 分、カラー)試写会。米平和活動家の監督ハスケル・ウエックスラー氏が実写フィルムを使い製作。「子どもたちに世界に！被爆の記録を贈る会」が入手。82, 3, 19

広島、長崎両市が共同で製作した原爆映画「ヒロシマ・ナガサキー核戦争のもたらすもの」が完成。早川正美監督、16 ミリカラー、46 分。広島市としては「ヒロシマ原爆の記録」(1970 年)につぎ 2 作目。82, 3, 31

在米被爆者の実態を記録した映画「SURVIVORS(生き残り)」がサンフランシスコの日系市民協会で試写会。被爆者ら 10 人が鑑賞。82, 4, 17

写真集「原爆の碑 広島のごころ」(黒川万千代編)が新日本出版社から発刊。82, 7, 15

偶発核戦争の恐怖を描いたアメリカ映画「未知への飛行」(シドニー・ルメット監督、主演ヘンリーフォンダ、ダン・オハーリー、

1964年)の試写会が広島市内で開かれ、荒木市長ら約350人が鑑賞。82, 9, 14
 米ソの医師が核戦争防止を語り合うソ連製作の**テレビ映画「核戦争一不治の病」**が米で放映。82, 10, 13
 原爆の後障害で亡くなった長崎市内の小学校教諭山口竹子さん(当時32歳)をモデルにした**映画「せんせい」**(製作・映像企画)が完成。82, 10, 27
原爆アニメ映画「はだしのゲン」の上映で、作家の中野孝次氏や作曲家のいずみたく氏らが草の根の上映推進委員会を東京で結成。全国1000カ所で上映へ。83, 4, 5
原爆アニメ映画「はだしのゲン」完成。広島市で試写会。23日から一般公開。83, 7, 19
 第五回ヒロシマ国際アマチュア映画祭の入賞作品が決まる。グランプリの広島市長賞に、埼玉県川口市の**斉藤信雄、久美子さん**夫妻の**「おやじの墓」**(8ミリカラー、30分)を選ぶ。83, 4, 25
 首なし地蔵をヒントに**児童文学者の山口勇子さんが創作した「おこりじぞう」のアニメーション映画**(27分、カラー)が完成。83, 5, 17
 広島市の画家**浜本武一氏**が2年がかりで製作した**ビデオ「光の鎮魂歌」**が完成。83, 7, 29
 故永井隆博士の自伝を映画化した**「この子を残して」**(木下恵介監督)が完成。83, 8, 5
井伏鱒二氏の「黒い雨」が**テレビドラマ化**。日本テレビ系で放映。83, 8, 20
 大内五良前広島県医師会会長らが作った**16ミリ映画「ヒロシマの医師たち—38年のドキュメント」**完成。83, 11, 5
 核戦争の脅威を訴えた**米ABC放送制作のテレビドラマ「ザ・デイ・アフター」**(その翌日=核戦争の後で)が、全米ネットで放映、世帯の約7割、1億人が見る。アキバ・プロジェクトで7月に広島、長崎を取材したミルウォaukee WISNテレビのマーシャ・ウオルトン記者がドラマとあわせて、被爆者の証言を中心にしたドキュメンタリーを放送、反響を呼ぶ。83, 11, 20。ソ連国営テレビがこのドラマの一部を放送。83, 11, 23
 第26回ライブチヒ国際記録映画祭で**NHK広島放送局が制作した「きみはヒロシマをみたか」**銀鳩賞 83, 11, 28
武智鉄二監督の映画「高野聖」が被爆者を冒瀆している、と広島被爆者団体連絡会議(近藤幸四郎事務局長)が上映中止を求める。84, 1, 18 広島県、市も上映中止を文書で申し入れ。「被爆者を著しく傷つける内容で、ヒロシマの心を踏みにじる」。84, 1, 24。これにたいし、武智監督が日本被団協、広島市などに「反核映画であり、被爆者団体などの主張は誤解もはなはだしい」と文書で回答。84, 2, 1
核戦争映画「ザ・デイ・アフター」の一般公開の前に試写会。84, 1, 21
 公開された広島リッツ劇場では3月9日までに約2万人が鑑賞。1, 28
宮崎駿監督アニメ映画「風の谷のナウシカ」封切。84, 3, 11
 富永初子さんら広島の語り部11人の証言を集めた**反核ドキュメント映画「生きるための証言—いまヒロシマから」**(同映画製作委員会製作)が完成し、東京で試写会。監督は**青銅プロダクション片桐直樹**。84, 6, 19
中沢啓治さんのアニメ第2作「黒い雨にうたれて」が完成し東京で試写会。84, 7, 20
 戦争で犠牲になった世界各国の子供たちの被害をドキュメンタリーフィルムと**アニメで記録した「戦争=子供たちの遺言」**が完成。「10フィート運動」を進めた羽仁進さん、岩倉務さんらが製作。84, 7, 26
NHKが「世界の科学者は予見する・核戦争後の地球」を放送。第1部「地球炎上」、第2部「地球凍結」。英の物理学者フランク・バーナビー博士がメイン・キャスターに。84, 8, 5
映画「白い町ヒロシマ」(現代プロダクション製作)が完成。広島、東京で試写会。84, 11, 10
 広島の被爆者11人の体験や生活を記録した**映画「生きるための証言」**が東ドイツ・ライブチヒ映画祭で世界平和評議会賞受賞。プロデューサー**葦沢正さん**が製作委員会を結成、6月に完成。84, 12, 6

1985年~1994年

長崎市教育委員会が中学校の平和教育用教材として原爆被爆写真パネルと映写用被爆写真フィルムを初めて製作。85, 1, 8
 広島女高師付属山中高女の同窓生有志20人が、動員先や学校で被爆した旧友を追跡調査し「追悼記—1冊の貯金通帳番号控えより」を自費出版。85, 1, 10
東広島市県立賀茂高校3年生が、肉親らの戦争、原爆体験記「父母の現代史」まとめる。85, 2
 「反核・写真運動」(代表委員、秋山庄太郎氏ら)が被爆40周年の記念事業で原爆写真パネル(1組57点)を制作。貸し出し活用を呼びかけ。85, 3

尾道市の会社員平原伝彦(当時中国配電尾道営業所勤務)が原爆投下4ヵ月後の広島を撮影した写真根が12枚を原爆資料館に寄贈。85, 7, 4

写真家の森下一徹さん(東京渋谷区)が**写真集「被爆者」**をほるぷ出版から発刊。85, 7, 10

日本ポーランド合作テレビドキュメント「かよこ桜の咲く日」完成。長崎とアウシュビッツの惨劇を描く。85, 7

土田ヒロミ氏の写真集「ヒロシマ」が佼成出版社から発刊。85, 8, 6

原爆アニメ映画「はだしのゲン・2」(ゲンプロダクション製作、平田敏夫監督)が完成。東京で試写会。86, 5, 10

国際平和年記念の子ども向け**反核アニメ映画「百ばんめのサル」**(ケン・キース・ジュニア原作)完成。86, 5, 27

1986年3月に平和学習で広島市を訪問した東京の小中学生149人を描いた**ドキュメント映画「東京・ヒロシマ子ども派遣団」**が完成。東京で試写会。86, 5, 27

爆心地から40キロ離れた中国山地から原爆投下直後のキノコ雲を撮影した2枚の写真が見つかる。広島県高田郡美土里町の織田吾郎さん撮影。86, 8

朝鮮人被爆者を主役にした**原爆記録映画「アリランのうたーヒロシマ・ナガサキを生きる」**(朴寿南監督)のヒロシマ編が完成。86, 10, 9

日本原水協が写真集「ドキュメント 1945～1985」を出版。40年間の原水禁運動の記録写真310点。87, 2

広島平和教育研究所(空辰男理事長)と広島映画センター(小森敏広代表)が共同で設立した広島平和教育映画ライブラリーの10周年記念誌「PEACE&シネマ」発行。1976年4月発足以来の年間貸し出し実績、作品リストのミニ解説など。13本でスタートし、劇映画24本、記録映画40本、アニメーション22本に。87, 4

映画製作会社「遊学舎」(東京、保田和好社長)が製作していた**反核学習用アニメーション「核戦争」**が完成し広島映画センターが貸し出し始める。87, 5, 16

動物を主役に平和を訴える**長編人形アニメーション映画「SOS こちら地球」**が完成、試写会。**河野秋和監督**。共同映画全国系列会議製作。87, 6, 12

広島市で**英製作の反核アニメーション映画「風が吹くとき」**の試写会。監督は親類を長崎の原爆で失っている**日系英人のジミー・ムラカミさん**。87, 7, 2

被爆死した中学生の学生服を見て映画製作を思いついた**菅田良哉さん**(神奈川県川崎市)が4年がかりで**「ヒロシマという名の少年」**を完成。女優の吉永小百合さんがナレーターで協力。87, 7

大阪府池田市のフリー・カメラマン山本将文さんが在韓被爆者を一年間取材し、大阪市で始まった「広島市民が描いた原爆絵画展」に賛助出品。87, 7, 8

広島テレビ局の夏の原爆番組決まる。87, 7

- NHK 「救援ーヒロシマ残留放射能の42年」「ヒロシマ・老いゆく日々」「お母さん「水」を」など
- 中国放送 「BLACK RAIN 検証「黒い雨」」「自刃ー王公族付き武官の最後」「ヒロシマってな あにー米国に行く若き語り部たち」
- 広島テレビ 「ヒロシマを見ましたー原爆資料館対話ノート」
- 広島ホームテレビ 「継承ー白い記憶の祈り」
- テレビ新広島 「碑その語るもの」

1986年に公開された**反核アニメ映画「100ばんめのサル」**が絵本に。原作は米作家ケン・キース・ジュニア。映画は女優吉永小百合さん、作家C・W・ニコルさんが日本語版と英語版のナレーションを担当。87, 8

京都のフリーカメラマンの**山田梅雄さん**が、広島を中心に平和問題に取り組む高校生の姿を追った**写真集「みつめる瞳 地域・平和・連帯」**を発行。87, 12

被爆都市広島を紹介するため、**広島市**が製作していた海外向け**広報ビデオ「ひろしまはいま」**の日本語、英語版が完成。カラー、25分。監督は渋谷昶子さん。88, 1, 20

広島市が**原爆記録映画「ヒロシマ原爆の記録」**の18年ぶり改定を決める。「ヒロシマ原爆の記録」は1970年8月製作。88, 2, 12

広島で被爆した移動演劇隊「桜隊」を映画化した**「さくら隊散る」**が完成。**新藤兼人監督**。88, 3, 17

カナダ人**写真家ロバート・デルトダシーさん**が米の平和賞「オリーブ・ブランチ賞」受賞。米核兵器工場、広島、長崎の被爆者などを収めた**写真集「核兵器製造の現場」**が評価。88, 3, 24

NHKが1946年のビキニ原爆実験の全容を伝える「**RADIO BIKINI ビキニ核実験はこうして行われた**」を放送。米がムービー、スチール計750台のカメラで記録したフィルムで、海軍省倉庫に秘密に保管。88, 4, 8

広島市西区の被爆語り部・**金崎是さん**の**紙芝居がアニメ映画「天に焼かれる」**に。東京の映画製作会社「ワイズ」が広島映画センターの協力で製作。88, 5, 9

広島平和文化センターが、広島と長崎で二重被爆した三菱重工の元造船満人の証言ビデオを収録。長崎市の山口彊さん、同岩永章さん、熊本県本渡市の佐藤邦義さん。3人は三菱重工長崎造船所で設計に従事。5月31日から旧広島造船所出張中に被爆、長崎に帰り再び被爆。88, 5, 16

広島平和文化センターが米戦略爆撃調査団が撮影した原爆記録フィルム10本をビデオ化。一般用40本、マスコミ用20本。88, 10, 24

「原爆に夫を奪われてー広島農婦たちの証言」(岩波新書)の英語版「WIDOWS OF HIROSIMA」をマクランプレスが出版。編者の神田三亀男さんに届く。ヨーク大日本語講師のタエコ・クランプ、同教授のジョン・クランプの夫妻が翻訳。1985年のドイツ語版に次ぐ。88, 11, 1

広島市で映画**「黒い雨」**の試写会。89, 2, 7

映画**「黒い雨」**の完成を**今村昌平監督**と主演女優田中好子さんが原爆慰霊碑に報告。カンヌ映画祭で高等技術委員会賞を受賞。89, 5, 8。フランス・マルティニ・エ・ロッジ社の第2回「マルティニ映画大賞」を受賞。89, 10, 17。ニューヨークで一般公開。90, 2, 1

広島市基町小の被爆エノキを守る児童らの活動をモデルにした**アニメ「ひろしまのエノキ」**が完成、東京で試写会。**原作、長崎源之助さん、監督出崎哲さん**。89, 3, 10

映画**「ヒロシマ原爆の記録」**の19年ぶり改訂版の骨子ができる。新作は**「ヒロシマ・母たちの祈り」**。原爆映画製作委員会(委員長、重松逸造放射線影響研究所理事長)が監修し、日本映画新社が製作。脚本・監督は旧作と同じ小笠原基生さん。89, 4, 11

映画**「千羽鶴」**が完成。**神山征二郎監督**、広瀬珠美、倍賞千恵子、前田吟さんら出演。共同映画。89, 5, 19

井伏鱒二氏の小説**「黒い雨」**が**英語ドラマになりNHKの国際放送ラジオ・ジャパン**で世界に放送。89, 8, 7

1953年、映画**「原爆の子」(新藤兼人監督)**の第6回カンヌ映画祭への出品に米が圧力をかけ、受賞に外務省が妨害工作を試みたことが、外交文書公開で判明。しかし、大使館側は最終的には「政府が介入すればかえって世界の注目を引くだけ」と「現地代表をしてなんらの措置をとらずに見送らせることにした」と指示通りにはうごかず。89, 10, 15

米原爆開発プロジェクト「マンハッタン計画」を描いた映画**「ファットマンとリトルボーイ」**が完成。**ローランド・ジョフェ監督**、ポール・ニューマン、ドウェイト・シュルツ氏ら出演。パラマウント社。89, 10, 20

広島市が被爆45周年を記念して製作した**原爆記録映画「ヒロシマ・母たちの祈り」**が完成し、初公開。同映画は1970年製作の「ヒロシマ原爆の記録」改訂版。90, 4, 10

広島市の原爆資料館にある黒こげの弁当箱をテーマにした**児童書「まっ黒なおべんとう」**が、共同映画全国系列会議の製作・配給で**アニメ映画化**へ。90, 4, 20

長崎市が1990年から被爆者の映像を記録。初年度10人の**「被爆の語り部」**をビデオ収録。90, 4

漫画家中沢啓二さんの原作・脚本による**原爆アニメ「クロがいた夏」**が完成、東京で試写会。6日広島。90, 6, 4

原爆アニメ映画「まっ黒なおべんとう」が完成し、映画のモデルとなった母の折免シゲコさんが住む広島市佐伯区で試写会。90, 6, 17

原爆アニメ「原爆ドーム物語」が完成し、広島市内で試写会。語り手は俳優の田村高広さん。90, 6, 20

英のオーストラリア核実験を告発した**米・オーストラリア合作映画「グラウンドゼロ」**(1988年製作)が広島市中区のサロンシネマで上映。90, 7, 28

米戦略爆撃調査団に加わった海軍写真班員H・Jペーターソン氏が、被爆直後の1945年11月の広島市を撮影した写真やネガ106枚を原爆資料館に寄贈。91, 9, 13

終戦後数年間、原爆ドーム南側にあり原爆絵画展の会場などとなった「五流荘」の写真が見つかる。1948年から53年まで呉市に駐留していた元オーストラリア兵ビル・シェリフさんが撮影。93, 2

長崎の被爆者と東京の映画監督の2人の同姓同名の**金高謙二さん**が、協力して**ドキュメンタリー反核映画「ある同姓同名者が**

らの手紙」を製作。92, 6

米サンフランシスコで活動するプロジェクト・ゲン(アラン・グリーンソン代表)が、7月3日からアニメ「はだしのゲン」を全米上映。92, 6

光市でフリーカメラマン豊崎博光さんの写真展「世界の核被害 1978年～1991年」92, 8, 2

広島市内で原爆開発のマンハッタン計画を描いた米国映画「シャドー・メーカーズ」(原題「ファットマンとリトルボーイ」)特別試写会。3年前に完成したが日本では未公開。ビデオ発売を記念し広島で上映会。92, 8, 14

盛岡市で、被爆直後の広島、長崎を撮影した米海兵隊従軍カメラマン、ジョー・オダネル氏の写真展。死んだ弟を埋葬する穴が掘られる間、弟をおぶって立ちつくす少年など15点。92, 10, 13

第10回国際アマチュア映画祭(実行委員長平岡広島市長)23カ国206の応募作品から三次市の教員国村栄治さんの「平和を生きる—47年目の夏に」がグランプリに決まる。93, 4, 12

東広島市原爆資料保存推進協議会(五島正三会長)が、同市在住の4人の被爆証言ビデオを製作。93, 5

広島市でアニメ映画「かっ飛ばせ!ドリーマーズ カーブ誕生物語」の製作発表会。原爆に両親と弟を奪われながら野球に熱中し、カーブ球団誕生に胸を躍らせた少年が主人公。原案中沢啓治氏、監督兼森義則さん。広島映画センター製作。93, 5, 25。94, 1, 20 完成し、広島市内で試写会。

広島市御幸橋のたもとで撮った松重美人さんの写真に写る坪井直さんが広島県被団協(森滝市郎理事長)の事務局員として被爆者の世話へ。93, 8, 6

被爆50周年史の編さんを進めている広島市が、被爆翌年から、1949年ごろまでの復興の様子をおさめた写真約1,000点を、元オーストラリア兵から入手。94, 1, 9

被爆三輪車を題材にした短編アニメ映画「しんちゃんのさんりんしゃ」が完成し、原作兼製作者の元中学校教師児玉辰春さんが披露。94, 5, 10

広島平和文化センターが収録を続けている被爆者証言ビデオの1994年版が完成。94, 7, 22

原爆投下直後の広島に大量の医薬品を届けたスイス人医師マルセルジュノー博士の足跡をたどるビデオ「第三の兵士」が完成。94, 7, 25

2. 文芸・出版（文学・詩歌・漫画・体験記・証言・論評など）

1945年～1954年

- 広島通信病院院長蜂谷道彦、原子爆弾と原爆症の臨床研究を「産業経済新聞」に発表。45, 9, 11
- 広島の中国文化連盟機関紙「中国文化」創刊。原子爆弾特集号(体験記3編、詩12編、短歌170首、俳句64句)46, 3, 10
- 雑誌「世界」三月号が「原子爆弾」特集を掲載。46, 3
- 詩人栗原貞子氏の詩歌集「黒い卵」出版。46年
- 米「ニューヨーカー」特集号「ジョン・ハーシーのヒロシマルボ」、一日で30万部売り切れる。46, 8, 31
- 雑誌「女性改造」11月号に中野五郎氏が「『ヒロシマ』アメリカ記録文学の問題について」を寄稿。46, 11
- 「世界」二月号に都留重人氏が「ハースイの『広島』書評」。47, 2
- 原民喜、「夏の花」を「三田文学」に発表。47, 6, 1
- 正田篠枝、歌集「ざんげ」を非合法自費出版。47, 12, 5
- 「ざんげ」より
- ピカッドン 一瞬の寂目をあければ 修羅場と化して 凄惨のうめき
目の前を なにの実態か 黄煙がクルクルと 急速に過ぎる
- 阿川弘之氏が小説『八月六日』を「新潮」12月号に発表。47, 12, 1
- 大岡昇平「俘虜記」を「文学界」に発表。48, 2
- 永井隆氏「ロザリオの鎖」発刊。48, 6, 15 以後、「この子を残して」など刊行。
- 論文「原子病概論」（長崎医大永井隆教授）執筆三年目に脱稿。原爆に侵された死の床で原稿用紙300枚。48, 7, 28
- 大田洋子氏「屍の街」発刊。48, 11, 10（GHQの検閲で一部削除を命じられる）
- 小倉豊文（広島文理科大助教授）著「絶後の記録 広島原子爆弾の手記」中央社から刊行。48, 11, 30
- 永井隆「長崎の鐘」刊行。49, 1, 30
- 日本戦没学生手記編集委員会、全国から遺稿を集め「きけわだつみのこえ」を出版。49, 10, 20
- 国際ペンクラブ大会（1950年イギリス）出席前に、川端康成日本ペンクラブ会長が広島市を訪問。49, 11, 26
- 新日本歌人協会広島支部を中心に「反戦詩歌人集団結成準備会」。深川宗俊、峠三吉らが中心。50, 4, 22
- 広島市社会課が市民の原爆体験記を募集。50, 5, 28
- 大田洋子氏著「人間檻樓」河出書房から発刊。50, 8, 15
- 阿川弘之氏「年年歳歳」を京橋書院から出版。50, 9, 20
- 「原子爆弾の効果」米国原子力委員会・国防省企画・後援、ロスアラモス科学研究所指導。篠原健一、石川数雄、山口宗夫訳。主婦の友社。51, 2, 20
- 「川よとはに美しく 米田栄作詩集」を新文明社から発刊。51, 4, 25
- 峠三吉氏の謄写刷り「原爆詩集」発刊。詩20編。51, 9, 20
- 「原爆詩集」より
- 「ちちをかえせ ははをかえせ としよをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ
わたしにつながる にんげんをかえせ にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを へいわをかえせ」
- 峠三吉氏「原爆詩集」青木文庫から出版。25編。52, 6, 15
- 原爆体験少年少女の作文集「原爆の子—広島少年少女の訴え」岩波書店。編広島大長田新教授 51, 10, 2
- 「Oの暁-原子爆弾の発明・製造・決戦の記録」(W・L・ローレンス著 崎川範行訳)創元社から発刊。51, 12, 10
- 阿川弘之 小説「春の城」新潮社。52, 7, 31
- 詩集「原子雲の下より～広島の人々の平和のうたごえ」(峠三吉編)青木書店。52, 9, 1
- 「愛は死をこえて」ローゼンバーグの手紙 山田晃訳 光文社。53, 12, 20
- 阿川弘之 「魔の遺産」新潮社から出版。54, 3, 28
- 広島大付属図書館が「平和文庫図書目録」をつくり全国の大学へ。54, 8, 16
- 現代詩人会「死の灰詩集」(宝文館)121編を収録。54, 10, 5

1955年～1964年

白木裕が歌集「炎」出版。55, 2, 7

「炎」より

離ればなれに焼かれて死にし妻子らよ 魂呼び合わせて今は会えらむか

「原爆句集広島」完成。11, 023 句の投稿、応募者 674 人。55, 7, 27

「死の灰」武谷三男編 岩波新書の英訳完成。55, 4, 11

原爆投下当時、広島市助役だった柴田重 広島市議会議長が「原爆の実相」を出版。55, 8, 6

「サムライの末裔」芹沢光治良 角川新書。55, 8

「原子カと文学」小田切秀雄編 講談社。55, 8

「ビショップの輪」細田民樹 講談社。55, 9

「ヒロシマ日記」蜂谷道彦広島通信病院長 朝日新聞社。55, 9, 25

米ニューズ・ウイーク紙が 1955 年米出版界の「年間10大良書」のひとつに「ヒロシマ日記」を推薦。56, 1, 31

原水禁広島協議会が企画した紙芝居「手をつなぐ世界の子供たち」(作・鈴木正道 絵・四国五郎)。57, 3, 7

武谷三男立教大教授が新しい著作「原水爆実験」の中で、米が研究を進めている「きれいな水爆」を批判。

「起爆剤にどのようなものを使っても爆発は中性子が出る。中性子照射により遺伝的に障害の大きい放射性炭素 14 や放射性コバルト 60 などがつくられコバルト爆弾になる可能性がある」。57, 7, 23

久保田万太郎の原爆句碑(広島市三滝山多宝塔)を除幕。58, 5, 11

焦土かく 風たちまちに かおりたつ

「千の太陽よりも明るく」ロベルト・ユンク著、菊森英夫訳。文芸春秋新社。58, 5, 15

「渚にて 人間の歴史を閉じる日」ネヴィル・シュート著、木下英夫訳。文芸春秋新社。58, 6, 20

「原水爆時代 上」今堀誠二 三一新書。59, 7, 21(下は 60, 8, 6)

フランス在住の作家エディタ・モリスの作品「ヒロシマの花」が米欧で反響。60, 6

「橋の上の男—広島と長崎の日記」ギンター・アンデルス著、篠原正瑛訳 朝日新聞社。60, 8, 1

「あれから 15 年」正田篠枝著 平凡社。60, 8

作家大江健三郎が中国新聞に「ヒロシマー九六〇」を寄稿。60, 8, 7

「レベル7(第七地下壕)」M・ロシュワルト、訳 小野寺健 弥生書房。60, 9

「もはや高地なし ヒロシマ原爆投下の秘密」F・ニーベル、C・ペイリー共著 笹川正博、杉淵玲子訳 光文社カッパ・ブックス。60, 10

「かえらぬ鶴」瀬戸奈々子 白樺社。60, 11

「科学と平和の創造」坂田昌一著、岩波書店。63, 2, 28

広島の実母たちの手による童話集「つるのとぶ日—ヒロシマの童話」東都書房から出版 著者は大野允子、山口勇子、宮本泰子、御手洗旬江ら。63, 7 この童話が厚生大臣賞受賞。64, 4

1965年～1974年

「アメリカの英雄」いっだもも著 河出書房新社。65, 1, 30

「原爆から生き残る道」D・Eリエンソール著、鹿島守之助訳 鹿島研究所出版会。65, 3, 1

「ヒロシマ・ノート」大江健三郎著 岩波書店。65, 6, 21

原爆童話集「つるの飛ぶ日」を書いた広島県佐東町の大野允子さんが原爆長編童話「海に立つにじ」を講談社から出版。65, 8

「核戦略批判」豊田利幸著、岩波新書。65, 8, 20

「原爆と人間の将来」カール・ヤスパーズ著(ドイツの哲学者)、翻訳者 大阪歯科大細尾登医師(和歌山県田辺市)。65, 10

「少年詩集」(全国 56 の小中学校の文芸誌、壁新聞に載った原爆と戦争をテーマにした詩 84 編を収録)広島の人松尾静明が出版。66, 7, 24

「黒い雨」井伏鱒二著、新潮社。66, 10, 25。(「新潮」66 年 9 月号まで連載、当初「姪の結婚」途中より「黒い雨」と改題)

「原爆投下決定」L・ギョワニテイ、F・フリード共著、堀江芳孝訳。原書房。66, 12, 25

原爆被災児の文集「わたしがちいさかったときに」 童心社 絵・岩崎ちひろ。67, 7

神奈川県横須賀市の日本エスペラント学会語学委員の松葉菊延さんが峠三吉の「原爆詩集」の一部をエスペラント語に翻訳。世界各地に紹介。68, 8, 6

「核時代を超える 平和の創造をめざして」湯川秀樹、朝永振一郎、坂田昌一編著、岩波新書。68, 8, 20

「われなお生きてあり」(長崎生まれの被爆詩人、福田須磨子さんが被爆から 20 余年の生活記録をまとめたもの)第九回田村俊子賞を受賞。69, 4, 16

「核時代の軍縮」前田寿著、潮新書。69, 4, 25

大阪市原爆被害者の会(前田敏夫会長)が被爆女性の闘病の日々を記録した「被爆婦人の集い」を出版。同会婦人部が二年半、毎月発行したガリ版刷りしんぶん。69, 8, 2

「未来を語りつづけて 原爆体験と教育の原点」広島県教職員組合、原爆被爆教師の会編。労働旬報 69, 8, 6

長崎県内の被爆者、戦争体験者らの証言集「長崎の証言」発刊。長崎の証言刊行委員会(代表鎌田定夫 長崎造船大教授)の発行。小中学生も含む 45 人の証言を収録。69, 8, 8

「現代の戦争と平和の理論」A・ラパポート著、関寛治編訳。岩波新書。69, 8, 20

大江健三郎「核時代の想像力」。新潮選書。70, 7

「夏の花」原民喜、晶文社。70, 7, 31

原爆被爆者を怪獣扱いした「ひばくせい人」が小学生むけ月刊雑誌に登場。日本原水協が小学館と円谷プロに抗議。70, 10, 14。15 日には東京都被団協が、18 日に広島県被団協が、原爆被爆者を怪獣扱いした「ひばくせい人」問題で円谷プロが広島被団協に謝罪文。「配慮が足りなかったことを反省し、今後スペル星人(ひばくせい人)の資料提供は一切差し控える」。70, 11, 2

梶山季之が小説現代3月号に発表した「ケロイド心中」が「被爆者の心を踏みにじる」と広島県被団協(田辺勝理理事長)、広島原水協(佐久間澄理事長)が梶山氏と講談社に抗議文。71, 2, 24

漫画家中沢啓治が初の単行本「黒い雨に打たれて」を出版。ドミーエ書房。中沢さんは小学校 1 年のとき、広島市船入本町で被爆、父親と姉、弟を失い、母親がその日に出産した赤ちゃんは三ヶ月で死亡。71, 7

エディタ・モリスの「ヒロシマの花」の翻訳が朝日新聞から出版。阿部知二訳。71, 7, 15

国鉄労組被爆者対策協議会(事務局長、石川俊彦国労広島地本委員長)が、国鉄マンの原爆体験記「この怒りを」出版へ。「被災五時間後には、ぼろきれのようになった人々を乗せて上り列車が動いた。その背景には国鉄マンの使命感があった」。71, 7, 30

セポロト・オフチニコフの「ヒロシマの灰はまだ熱い 続・サクラと沈黙」徳間書店 石黒寛訳。71, 8, 15

小学校低学年むけ「ゆみ子とつばめのおほか」 偕成社 今西裕行作 遠藤てるよ絵。71, 10

東京の市民グループ「原爆体験を伝える会」が英文パンフレット「水ヲ下サイー広島・長崎の証言」(一万部)をつくる。原爆文献を活用し被爆の惨状や被爆二世、朝鮮人被爆者など多角的な視点。72, 3, 17

広島県が三年がかりで編集していた「広島県史・原爆資料編」を発刊。全 27 巻の県史の第一号。戦争末期の防衛体制、原爆被災の記録、原爆調査団の活動、原爆に対する国際的反応、平和への努力、の五部に編集。県史編纂室長の熊田重邦広島女子大教授「ヒロシマの願いを凝縮した資料編であり、単なる郷土史ではない」。72, 3, 31

長崎県被爆教師の会が編集をすすめる原爆副読本について、長崎市小学校長会、同中学校長会が「校内販売は好ましくない」と通告。校内物品販売を禁じた市教委通達(1963年)を適用。被爆教師の会は「被爆都市で原爆を教えるな一というのは納得できない」と反発。72, 7, 10

長崎県被爆教師の会の平和教育資料編集委員会(代表者 坂口便山里小教諭)が「ナガサキの原爆読本」を刊行。72, 7, 12

長崎の証言刊行委員会「長崎の証言・第4集」「爆心の丘にて一山里浜口地区原爆戦災誌」出版。72, 7, 25

「偏見と差別 ヒロシマそして被爆朝鮮人」 平岡敬著 未来社。72, 8, 6

第 25 回野間文学賞に佐多稲子の「樹影」(講談社)が決まる。長崎で被爆した中国系女性と被爆直後に入市し遺体処理に従事し

た画家の愛を縦糸に、原爆、民族などの問題を描く。72, 11, 8

東京空襲を記録する会「東京大空襲・戦災誌」刊行。73, 3

中沢啓治の漫画「**はだしのゲン**」週刊少年ジャンプで連載始まる。1974年9月23日まで連載。73, 6, 4
西ドイツの作家エルンスト・フォン・ザロモンが広島をテーマに「**千羽鶴**」を出版。73, 6
小学館発行の「小学六年生・八月号」と「少女コミック・33号」の鈴原研一郎作「**この命ある限り**」が、「被爆二世と白血病を単純に結びつけ、ゆがんだ二世像を描いている」と被爆者団体などが批判。73, 8
広島市牛田本町の自宅で被爆し国民義勇隊の参謀長として原爆ドームで被災証明書を発行した中山良二さんが**体験記「原爆に想う」**を出版。73, 8, 6
石田忠一橋大教授「**反原爆—長崎被爆者の生活史**」未来社。73, 9
広島市の山崎与三郎さん一家四人で**被爆体験記「死線を超えて—吾家の原爆体験記**」を自費出版。73, 7
爆心から800メートルの広島市基町の第二陸軍病院で被爆した松江市の元陸軍予備軍医が被爆体験記を出版。開業医の飯尾勝海さん。73, 10
詩集「ヒロシマ・未来風景」栗原貞子さんが出版。74, 4
原爆投下直後、長崎県が政府に提出した「**長崎原爆に関する空襲災害概要報告書**」が防衛庁防衛研修所戦史室で複写されていたことがわかり、そのさい複写版が長崎市に届いた。74, 7, 13
呉原爆被害者友の会会長中津泰人が**原爆川柳句集「慟哭**」を自費出版。74, 7, 25
「原子力の政治経済学」川上幸一著、平凡社。74, 8, 2
「世界原爆詩集」(大原三八雄編集)が出版。広島市で出版記念会開く。74, 8, 10
故正田篠枝の**原爆歌集「ざんげ**」の原本とその肉筆の原稿を、友人の歌人植野はる子さん、詩人栗原貞子さんが広島市へ寄贈。74, 8, 30

1975年～1984年

広島市消防局が編集した「**原爆広島消防史**」(A 5版)が完成。六章構成で、原爆投下は第四、五章の360ページ。当時の職員や遺族の手記、証言をもとに惨状や消防活動状況などを再現。75, 7, 16
長崎高女3年のとき、学徒動員の軍需工場で働いていて被爆した体験をもとにした作品「**祭りの場**」(群像昭和50年6月号)の著者林京子に芥川賞受賞が決まった。75, 7, 17
広島市内の母親らで作る「山下会」(宮部アヤ子代表)が会員の被爆体験をつづる**文集「朝」**1号を発行へ。副題は「被爆30年を生きて」。75, 7, 25 12号は76, 8
「長崎の証言第七集」が刊行。長崎で被爆した韓国人の証言を58ページ収録。75, 7, 29
広島大付属小の父母、児童、教師が平和への思いを込めてつづった原爆体験文集三部作が出版。1973年から始まった同小の体験継承学習の成果をまとめる。75, 7
広島大原爆被災史の**記録編「生死の火」**が完成。前身の広島文理科大、広島高師など各校の死没者名簿(913人)や遺族、南方特別留学生の手記を収録。75, 7, 31
「広島・長崎30年の証言 上」(広島・長崎証言の会編)未来社から発刊。75, 8, 6
「広島・長崎30年の証言 下」(広島・長崎証言の会編)未来社 76, 4, 30
原爆投下の約2時間後に広島上空を軍用機で飛んだ元陸軍少尉、安沢松夫さん(徳山市上山南野)が体験を小冊子にまとめる準備をすすめる。75, 8
元中国新聞記者、大佐古一郎さんが**被爆体験記「ヒロシマ昭和20年」**を出版。中央公論社 75, 8, 25
広島県安芸郡海田町の原爆被害者会(桧垣益人会長)が**記録集「被爆30年の歩み」**を発行。被爆者の体験や同会の援護法制定運動の歴史などをつづる。75, 9
朝日新聞のコラム「天声人語」で原爆慰霊碑の碑文をもじった文章が掲載され、二つの広島県被団協が「原爆犠牲者を冒瀆」などと大阪本社に抗議電報や書簡を送る。広島市民球場の乱闘事件に関するコラムで「同じことが何度も起こるようなら・・・野球記念碑を建てねばなるまい。『安らかに野球をしてください。過ちは繰り返させぬから』と。荒木広島市長も「市民として遺憾」。75, 9, 13
旧広島女子高等師範付属山中高等女学校の卒業生16人が**被爆体験文集「おもかげ—炎と瓦礫のなかに生きて」**を3年がかりで発刊。75, 10
韓国人被爆者の崔英順さんが**被爆体験記「ヒロシマを持って帰りたい」**を刊行。75, 11, 24

広島県動員学徒等犠牲者の会が**運動史「戦後 30 年の歩み」**を発売。旧国家総動員法で駆り出されて被爆死した動員学徒の歴史などを振り返る。75, 12

三宅泰雄著**「原子力と科学者」** 新日本出版社。 76, 1, 30

広島県が被爆 30 周年を記念し**「広島県庁原爆被災誌」**を刊行。当時の県庁職員は約 6,000 人、本庁関係は 1,323 人でうち 607 人が死亡。出先を含め 1,131 人が犠牲。76, 3, 27

被爆 30 周年記念事業で広島県が**「原爆 30 年—広島県の戦後史」**を刊行。執筆は今堀誠二広島大学総合科学部教授、小堀吉光広島市史編纂室長、庄野直美広島女学院大教授、湯崎稔広島大学原医研助教授、岸田純之助朝日新聞社論説委員、永田守男中国新聞社論説委員ら。76, 3, 31

第五福竜丸平和協会(三宅泰雄会長)が、**「ビキニ水爆被災資料集」**を刊行。76, 3, 31

在韓被爆者の姜寿元さんが自らの被爆体験と在韓被爆者の実態をまとめ**「可恐 原子爆弾投下」**を出版。カンさんは 1943 年に下関市で治安維持法違反で逮捕され、広島市吉島町の広島刑務所の独房で被爆。戦後に帰国、5 年前から韓国原爆被爆者協会の役員。76, 4

広島商業高校の生徒たちが被爆体験の継承をと、同校の前身の広島商業学校の遺族会と共同で**原爆被災誌「礎(いしずえ)」**を刊行。76, 5

森滝市郎が戦後の歩みをまとめた**「反核 30 年」**を日本評論社から出版。 76, 5, 30

名古屋市に住む被爆者亀沢深雪さんが、被爆者をテーマにした**小説集「傷む八月」**を刊行。76, 7

広島、東京、長崎の被爆者相談ケースワーカー**「原爆被害に関する事例報告—生き続けた 31 年」**を出版 76, 7

東京在住の漫画家永島省吾さんが広島平和文化センターに戦争告発の**漫画「砂糖のカプセルにくるんだニガイ薬」**(100 枚)を寄贈。76, 8, 20

全国原爆被爆教師の会の石田明会長が半生をつづつた**「被爆教師」**を出版。一ツ橋書房。76, 9, 10

被爆死した旧千田国民学校の学童、教師の遺族や元教師らが思い出や被爆体験をつづつた**遺族ニュース「つぼみ」**刊行。76, 11

広島城跡にあった旧陸軍第五師団司令部の戦友たちでつくっている広島師友会が、被爆当時の司令部などの状況を回想した**体験記「原爆下の司令部」**を出版。76, 12

長崎市立西町小学校の山崎虎雄校長が**「ナガサキの原爆読本」**を図書室から撤去。「公教育にふさわしくない」が理由。長崎県教祖は反発。77, 5, 18

大阪市原爆被爆者の会が被爆者の相談例をまとめた**「平和への遺産」**を出版。77, 5, 28

山口県原爆死没者の碑建設委員会(代表幹事、浜田峰夫山口大教授)が**「山口のヒロシマ」**を発売。77, 7, 2

正田篠枝さんの**原爆童話集「ピカ子ちゃん」**を生前の友人が出版。7 編のうち 4 編は未発表。77, 7

長崎市編纂の**原爆戦災誌(全五巻)**の第一巻「総説編」刊行。77, 7, 22

全日自労広島分会・自労被爆者の会が**「わしらの被爆体験—100 人の証言」**出版。77, 7

安佐共立病院の患者でつくる原爆被害者の会が**手記集「炎の中の私」**を発行。77, 8, 5

長岡弘芳**「原爆民衆史」** 未来社。 77, 7, 30

「核軍縮への新しい構想」湯川秀樹、朝永振一郎、豊田利幸編著、岩波書店。77, 8, 2

峠三吉の**「原爆詩集」**の英語版(三友社)発売。「八月六日」「死」「炎」など 24 編を収める。77, 8

旧広島県立第一高等女学校 1 年 6 組の生徒日誌をもとに、児童文学作家の大野充子さんが**「ひーちゃんはいった〜広島少女たちの遺書」**出版。77, 8

旧制広島市立中学校の遺族会と同窓会が**原爆手記集「鎮魂」**を出版。77, 8

医師の嘉屋文子さんが体験記**「広島に生きて」**を刊行。77, 9, 30

大阪府池田市の原爆被害者の会(桑井勇会長)が**「平和への願い〜地方都市からの訴え」**を出版。24 編の体験記と池田市被爆者実態調査結果。77, 12 この本が米議会図書館へ収蔵。 78, 10

広島県原爆被爆教師の会(石田明会長)と広島県高校原爆被爆教職員会(森下弘会長)が**被爆体験記「この子らに語り継ぐもの」**を出版。広島、山口県在住の被爆教師 14 人の手記をまとめる。77, 12, 21

広島市出身の中山土朗が**小説集「宇品棧橋」**を出版。10 篇中 9 編が原爆を題材。三交社。78, 2

「国際原子力戦争 危険な商品に群がる国々に」柿崎紀男著、学陽書房。78, 3, 1
 広島県廿日市中が父母の被爆体験記を出版。「**暗い青春**」67編。78, 3
 広島通産局(当時、中国地方軍需管理局)の被爆死職員の遺族らの体験記を載せた広島通産局**原爆被災誌「祈」**が刊行。65
 人が犠牲。78, 3, 29
 広島の被爆語り部、高橋昭博さんが**被爆体験記「ヒロシマ、ひとりからの出発」**を発刊。広島市立中2年で被爆、市役所に就職
 し1953年、原爆被爆者の会に入会、被爆体験を語り、以来の半生をつづる。78, 5
 釜ヶ崎原爆被爆者の会が「**釜ヶ崎原爆被爆者の会 5年間の歩み**」を出版。78, 5, 24
 中沢啓治の漫画「**はだしのゲン**」の英語版が完成。「BAREFOOT GEN」。東京の市民グループ「プロジェクト・ゲン」(大島賢洋代
 表)。1977年2月、大学生、会社員、米人英会話教師らで市民の会を結成。78, 6
「核先制攻撃症候群」服部学著、岩波新書。78, 6, 28
 山口勇子さんが「**かあさんと呼ばれた日**」を出版。草土文化社刊。78, 7, 20
 広島市基町空鞆橋東詰め中央公園に大田洋子文学碑が完成し除幕式。
 四国五郎のデザインで碑文は代表作「**屍の街**」の一節。
 少女たちは 天に焼かれる 天に焼かれる
 と歌のように叫びながら 歩いて行った
 作曲家尾上和彦が碑文に曲をつけ披露。78, 7, 30
 1946年7月、中国新聞の懸賞論文「ユートピア広島」1席になった故峠三吉の作品が兄の峠一夫氏の作と判明。三吉氏の作品
 は「文化聯合」に掲載された「**ちちははの鐘—20年後の広島**」。広島市の歌人、深川宗俊氏が中国新聞に「**幻の峠三吉論
 文**」として掲載。78, 7
 国労原爆被爆者対策協議会が広島、長崎の国鉄職員の被爆、救援体験をまとめた「**この怒りを 原爆被災復旧記録**」を発刊。
 78, 8, 3
 広島市三滝寺に原爆供養合同歌碑が完成、除幕式。33首を刻む。「真樹社」の山本康夫さんらが建立。1977年完成した原爆
 慰霊句碑の兄弟碑。78, 8, 6
 山口県熊毛郡熊毛町の北山紀子さんが広島陸軍病院看護婦生徒教育隊一期生として被爆者の救援に尽くし、原爆症を併発
 した半生を「**このみちをゆく**」と題した詩集にまとめ自費出版。78, 10
 被爆者の声を綴った**文集「木の葉のように焼かれて」**を14年間にわたって発刊してきた「新日本婦人の会広島県本部」(井原
 敏子会長)に「アリス・ハーズ夫人平和基金」から平和賞。受賞記念のつどい開く。同文集は1964年に名越操さんらが第一
 集を刊行。78, 11, 22、
 岡山の詩人永瀬清子さんら「戦争を語り継ぐ岡山婦人の会」が、「原爆・空襲」「外地から日本へ」などのテーマで**体験記「8・15
 前後～戦争と私たち**」を出版。79, 3
「昭和万葉集・巻7」講談社。「**敗戦前夜**」「**いまわしい記憶**」の2項目に24人の原爆作品42首収録。79, 5
 徳山被爆者の会(金子武会長)が**文集「濁き**」を創刊。被爆者10人の証言を収録。79, 5
「先制第一撃 アメリカ核戦略の全貌」ロバート・C・オールドリッジ著、山下史訳。TBSブリタニカ。79, 6, 15
 広島市の沢田直二さんが広島県甲奴、神石郡から建物疎開に動員され大半が被爆死した「甲神部隊」の妻たちの苦勞を聞き
 書きした「**妻の甲神部隊**」を出版。1975年に出した「一握りの砂」の続編。79, 6
 ヒロシマを知らせる委員会(原田東岷委員長)が「**ヒロシマを語る十冊の本**」を刊行。79, 6 10冊は
「夏の花」「原爆の子」「原爆に生きて」「花の命は短くて」「句集広島」
「ヒロシマ日記」「夕凧の街と人と」「ヒロシマ・ノート」「原爆爆心地」
 広島県朝鮮人被爆者協議会(朝被協)が、朝鮮人の**被爆体験集「白いチョゴリの被爆者」**を労働旬報社から出版。全国の朝鮮
 人被爆者18人が被爆と民族差別に苦しむ実態を訴える。李実根会長は被爆当時、広島市内にいた朝鮮人は5万2,000人
 から5万3,000人、うち4万8,000人が被爆、1年以内に3万人が死亡と推定。79, 7, 15
 戦時中、捕虜として長崎にいた元オーストラリア兵W・C・リード氏の被爆体験記が鎌田定夫長崎総科大教授のもとに届く。79, 7
 広島の場合ワーカー11人が被爆者の苦難の歴史を「**35年目の被爆者**」出版。労働教育センター。79, 7, 20
 全国の被爆者の被爆体験をテープに収め続けるもと長崎放送記者伊藤明彦さんの記録が1,000人を超す。1970年から21都

道府県、2,000人の被爆者を訪ねる。79,7 この全国の被爆者の体験や生活史をテープに収めた「**声の被爆体験集**」51本を広島平和文化センターに送る。82,8,4

中国新聞が企画「**原爆マンガ小史 平和思想の支流をたどる**」の連載始める。手塚治虫の「**アトム大使**」、鈴木研一郎の「**ママの日記帳**」、中沢啓治の「**黒い雨に打たれて**」「**黒い川の流れに**」など。79,8,1

童話「**はとよ ひろしまの空を**」を刊行。大川悦生作、二俣英五朗絵。ポプラ社。79,8

「**核時代の軍備と軍縮**」SIPRI 編・服部学訳、時事通信社。79,8

日本被団協の伊東荘事務局長が「**1945年8月6日**」を刊行。岩波ジュニア新書。79,8,6

日本児童文学者協会広島支部(吉本直志郎支部長、20人)が「**広島県の民話**」を刊行。原爆民話3話収録。

「**あの子どもがたり**」大野允子著、「**ガラスのわきてた話**」脇田充子著、「**墓の石べい**」三浦精子著。79,9

大阪の「**釜ヶ崎原爆被爆者の会**」(中村順会長)が**体験集「釜ヶ崎原爆被爆者の怒りと悲しみ**」を発刊。7人が証言。79,9

「**大阪市原爆被害者の会**」が被爆体験、生活記録をつづった「**平和への遺産**」シリーズ第一作「**500米に生きる**」を発行。爆心から500メートルで被爆した大阪市の三浦一江さんの体験記。79,12,28

「**大阪市原爆被害者の会**」の被爆体験・生活記録「**平和の遺産シリーズ**」第一集、「**遺産づくり運動～ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐために**」発刊。80,4,25

山口県原爆被爆者福祉会館ゆだ苑が被爆体験集「**語り～山口のヒロシマ I**」を発行。80,1,25

「**長崎の証言の会**」が朝鮮人被爆者の体験特集「**季刊・長崎の証言**」第6号を出版。80,2。第9号は80,11,11

神戸市原爆被害者の会が体験記「**きのこ雲は消えても**」を発行。80,2,26

「**未来からの遺言**」伊藤明彦著、青木書店。80,4

広島市の特別名誉市民メアリー・マクミランさんの広島での活動をまとめた「**ヒロシマのこだまに～メアリー・マクミランと広島**」が完成。広島女学院大の教え子ら15人が執筆、編集。80,5

長崎市教育委員会が同市の被爆教師らが作った平和カレンダーを「**政治的色彩が強く揭示は不適當**」と各小学校長に撤去を指導。長崎県教組の調べで判明。80,6,9

日本赤十字社長崎県支部が、被爆直後の長崎市で医療品不足に悩まされながら救護活動をした日赤看護婦の手記集「**閃光の影で**」を出版。80,7

全電通被爆者連絡協議会が被爆体験記「**原子雲の下に生きつづけて**」第7集。80,7,28

広島市の児童文学者吉本直志郎さんが原爆民話「**むかえじぞう**」を出版。80,7

車いすから平和を訴え続けている長崎市の被爆者、渡辺千恵子さんが香川県の子供高生との文通をきっかけに原爆絵本「**長崎を忘れない**」を出版。80,7,20

広島市医師会が、原爆医療を克明に記録した「**広島市医師会史(第二編)**」を出版。第一篇は1956年。81,1

広島市市史編集委員会が故都築正男東大教授の資料集を「**広島新史・資料編 I**」として刊行。81,4,3

大阪市原爆被害者の会が、会員で現場樹孤児の滝宮俊三さんの半生を「**人間をかえせ、わが家をかえせ**」と題し、記録集にまとめ出版。81,4

「**岐路にたつ原子力 平和利用と安全めざして**」D・Eリエンソール著、西堀栄三郎監訳、日本生産性本部。81,4,25

沖縄県原爆被爆者協議会(金城文栄理事長)が被爆証言集「**沖縄の被爆者**」を出版。81,5,15

旧広島一中の一年生の父母らの手記集「**星は見えている**」を広島市内の池上長子さんがテープに吹き込み、全国75ヶ所の点字図書館と広島市の平和記念館に寄贈。81,6

大江健三郎の「**ヒロシマ・ノート**」を弘前学院大教授の米沢紀さんと雑誌編集長デビッド・スエインさんが英訳し出版へ。81,6

新日本婦人の会広島県本部が、19年間発行してきた「**木の葉のように焼かれて**」14冊、210篇の手記から8編を選び同名のタイトルで出版。労働教育センター刊。81,6,22。第18集 84,7,26

小田実、「**HIROSIMA**」。81,6

長崎市教育委員会が、国際文化会館の原爆資料を見学する長崎市内の小学5年生に交通費の半額補助を決める。1983年2月までに全小学校54校が見学。82,2,25

新日本婦人の会広島県本部が発行してきた「**木の葉のように焼かれて**」英語版第2集を発刊。82,5,21

原爆孤児たちの生活を明るく描いた吉本直志郎の「**青葉学園物語**」全五巻が完結。81,6

広島市立本川児童館長大平数子さん(詩)と兄の比治山女子短大講師竹本三郎さん(挿絵)が合作で詩集「少年のひろしま」を出版。草土文化社。81, 6

高校教科書「現代社会」から「原爆の図」「はだしのゲン」などが削除。「原爆の図は悲惨すぎる」。81, 7, 9

広島原爆養護ホームが体験集「紙碑—被爆老人のあかし」発刊。81, 7, 21

「原爆1号」の吉川清さんが体験記「原爆1号と言われて」を発刊。筑摩書房。81, 7, 22

被爆の惨状記した広島市高等女学校(現舟入高校)の校史。7人の教師と544人の生徒が犠牲に。81, 7, 28

江刺昭子氏が評伝大田洋子「くさずえ」刊行。大月書店。81, 8

高橋昭博広島原爆資料館長が体験記「広島的心を若い世代に」を刊行。原爆資料保存会刊。81, 8, 8

広島市医師会が医師36人の被爆体験をまとめた「広島市医師会だより」特別号を刊行。81, 8, 15

石田明氏が「ヒロシマの母の遺産」を出版。労働教育センター。81, 8, 20

季刊雑誌「長崎の証言」が「ヒロシマ・ナガサキの証言」(仮称)として新発足、広島側編集委員「広島証言の会」が発足。約70人が参加、1982年1月中旬めどに創刊号。81, 11, 5

広島で平和・文化運動に貢献した広島県高田郡甲田町出身の故中川秋一氏をしのぶ「中川秋一遺稿集」が出版。1949年の平和用語大会の宣言文作成などに関与。81, 11, 11

灘神戸生活協同組合が文集「平和・母と子の願い」を出版。「1981年原水爆禁止・被爆者援護ヒロシマ集会」参加の同生協の親子170人が記す。81, 12

「ヒロシマ・ナガサキの証言」創刊号(82年冬号)が発刊。11年間長崎で発行された「長崎の証言」を引き継ぎ、「ヒロシマ証言の会」が発刊。82, 1, 26

季刊誌「ヒロシマ・ナガサキの証言」第2号刊行。今回は長崎側の編集。82, 5, 20

原爆漫画「はだしのゲン」のエスペラント版が、東京のエスペラントサークル「ロンド・ゲン」の手で刊行。82, 2

旧進徳女学校(現進徳学園)の2年生だった主婦6人が、被爆の惨状やその後の人生などを記録集「波羅蜜多に想う—進徳高女被爆生の記録」にまとめる。82, 2

神田三亀男「原爆に夫を奪われて 広島農婦たちの証言」岩波新書。建物疎開作業中に夫らが集団で被爆死し、「原爆未亡人村」と呼ばれた広島市安佐南区川内温井地区の農業婦人19人の証言。82, 2, 22

「核の栄光と挫折 巨大科学の支配者たち」ピーター・プリングル、ジェームズ・スピーゲルマン、浦田誠親監訳。時事通信社。82, 3, 10

「核の大火と『人間』の声」大江健三郎著、岩波書店。82, 5, 14

詩人会議(城侑会長)を中心にした反核詩人グループが、鈴木首相と米ソ在日大使館に全面軍縮を求める要望書と347名の署名を渡す。82, 5, 17

「核 知る、考える、調べる」日本科学者会議編、合同出版。82, 5, 20

広島市安佐南区川内の主婦村橋小町さんの原爆をテーマにした創作絵本「アサガオ 1945年8月6日ひろしま」が発刊。82, 5

原爆乙女として渡米し、ノーマン・カズンズ氏の精神養子になった広島の被爆者笹森恵子さんの半生記「恵子ゴーオン shigeko go on」が東京・汐文社から出版。82, 6, 1

「現代の核兵器」高榎堯(たかぎたかし)著、岩波新書。82, 6, 21

東京在住の広島の被爆者、水田九八二郎さんが、原爆文献1,300冊の解説、一覧をまとめ「原爆を読む—広島・長崎を語り継ぐ全ブックリスト」を講談社から発刊へ。82, 6

広島大総合科学部の芝田進午教授が共著で「反核・日本の音楽—ノーマン・ヒロシマ音楽読本」(汐文社)を出版。約400曲の原爆音楽リストや解説。82, 7

広島大名譽教授の中野清一氏(京都府宇治市)が「広島・原爆災害の爪跡」(蒼林社)を出版。被爆者の現代的課題などを収録。82, 7, 10

豊田清史著「はばたけ千羽鶴」(ちくま少年図書館65)が筑摩書房から発刊。82, 7, 30

徳島県原爆被爆者の会編の手記集「生と死 ヒロシマ・ナガサキから」発刊。82, 8, 1

元郵政省百年史編集室長の高橋善七さん(福岡市在住)が「『西の通信省』始末記」を出版。被爆直前、西日本の通信業務を

管轄する「西部通信総局」の秘話。生存者 32 人の証言や手記。82, 8

原爆映画作りにとりくむ 10 フィート運動の活動をまとめた記録集「KNOW MORE HIROSIMA(もっと広島を知って)」発刊。82, 8, 3

東京都立国分寺高校の教師川本信幹さん(竹原市出身)が親類や知人の被爆後遺症をテーマにした小説「緋の喪章」を近代文芸社から出版。82, 8

朴寿南著「もうひとつのヒロシマ 朝鮮人韓国人被爆者の証言」発刊。82, 8, 15

白血病のため 7 歳で死亡した広島市の被爆二世、名越史樹ちゃんの闘病生活を描いた絵本「ぼく生きたかった」が出版。両親の謙蔵、操さん(広島市西区己斐大迫二丁目)が小学生むけに執筆、東京在住の画家矢野洋子さんが絵を描く。82, 8, 20

絵本「ちいちゃんおかげおくり」(あまんきみこ作、上野紀子絵)あかね書房から発刊。82, 8

「中性子爆弾と核放射線」安斉育郎、連合出版。82, 9, 25

関東大震災と原爆被爆の両惨事に遭った元広島大学教授の新井嘉之さん(広島市南区)が自叙伝「震災・原爆の業火をこえて 一私の人生」(文献出版)を出版。82, 11

「核戦争と放射線」ジョセフ・ロートブラット、小野周監訳。東京大学出版会。82, 12, 20

婦人グループ「山下会」(楠登喜子代表)の体験手記集「ヒロシマの朝そして今」出版。82, 12, 10

広島市内のケースワーカーで作る「原爆被害者相談の会」(代表、河合幸尾広島女子大助教授)が相談員の活動記録をまとめた「ヒバクシャーとともに生きる」を発刊。82, 12, 11

大阪府被団協(貞永正弘理事長)が 25 周年事業で体験手記集「原子雲」を発刊。82, 12

広島市の被爆者小西ノブ子さんが原爆で全滅した草津義勇隊 157 人の最後の様子を記録した「地獄絵～草津南町国民義勇隊全滅の記録」を出版。83, 1

米フロリダ州タンパ市の牧師ドナルド・ドートリー氏が広島での見聞をもとに反核詩集「8 月の雨」(59 編)を作り、広島市の原爆資料館に贈る。83, 1, 22

広島・長崎証言の会が「ヒロシマ・ナガサキの証言」第 5 号を発刊。「被爆者援護法」「軍縮教育国際シンポジウム」を特集。83, 1, 26

横浜市の被爆者黒川万千代さんが広島での被爆体験や自らの平和運動をまとめた中、高校生むけの平和教材「猫ちゃんは帰らないーなによりも平和を」を出版。83, 3

広島県安芸郡府中町の「原爆体験を語りつくす会」が被爆証言第一集「きのご雲を見た町から」を発刊。83, 4

岡山市の関西高校生徒が父母や市民の戦争体験をまとめた冊子「語りつくす戦争体験」を出版。83, 5

「新・核戦略批判」豊田利幸、岩波新書。83, 5, 20

1949 年に出版された被爆体験手記集「天よりの大いなる声」の改訂版「天よりの声」を発刊。83, 6, 7

広島の教師や平和運動家が執筆した中、高校生向けの原爆読本「ヒロシマの子」発刊。83, 6, 17

大阪市に住む 75 歳の被爆者三上五月さんが息子の死と自らの被爆体験をつづった「直樹よ蘇れ～広島之母は慟哭する」を出版。83, 6

ほるぷ出版社(東京)が戦争や原爆を漫画で告発する「平和漫画シリーズ」第一期分 5 巻を刊行。83, 7

被爆直後の広島を世界に伝えたジャーナリストのウィルフレッド・バーチェット氏とその後の広島取材も加えた体験記「広島 TODAY」を出版。83, 8, 6

広島県高校原爆被爆教職員会の森下弘会長が被爆体験詩集「ヒロシマの顔」を自費出版。83, 8

浄土真宗本願寺派安芸教区の広陵東組仏教婦人会連盟が被爆体験記「炎の記録—安芸門徒の原爆体験」を出版。83, 10, 25

全電通被爆者連絡協議会が 1970 年来発行を続けている職場の被爆体験集「原子雲のもとに生きつづけて」が第 10 集で完結。83, 10, 25

広島市安芸区の船越原爆被爆者の会(浦田豊会長)が「被爆体験記集」を発行。84, 1, 14

広島県民生協(田中信夫理事長)が平和文集「未来を生きる子供たちへ」を発行。84, 2

広島県安芸郡府中町の私立こぼと幼稚園(宗藤尚三園長)が祖父母の戦争体験をまとめた「真っ赤な原子雲」を発刊。84, 2

「原潜回廊 第三次世界大戦は日本海から始まる」小川和久、講談社。84, 3, 15

1983 年夏に出版された「何とも知れない未来に」(大江健三郎氏編、集英社刊)の英訳本が完成、国際ペン大会で配布。原民喜氏「夏の花」、井伏鱒二「かきつばた」、大田洋子「ほたる」、井上光晴氏「手の家」竹西寛子氏「儀式」など 8 人 9 編を収録。

84, 5

「核戦争の危機に文学者はどのように対するか 文学的立場」日本近代文学研究所編著、不二出版。84, 5, 14

大阪市原爆被害者の会の森田栄会長が被爆直後の広島で救援活動に当たった軍隊の思い出などを記した「非核への浮標—ヒロシマの兵士たちの証言」を出版。84, 6

第五福竜丸の記録を児童むけノンフィクション「死の海をゆく 第五福竜丸物語」として国際基督教大職員の長谷川潮さんが出版。84, 7

旧広島高等師範付属中の1年生たちが「昭和20年の記録—全滅を免れた附中1年生」を出版。同1年生たちは原爆1ヶ月前から半月前に農村挺身隊として農村へ避難。84, 7

名古屋市の亀沢深雪さんが原爆で奪われた家族、女性としての夢などをつづった「広島巡礼」を出版。新地書房刊。84, 8, 1

広島市の医師原田東岷氏がエッセイ集「平和の夢を追いつづけて」を刊行。影書房刊。84, 8

「STOP アメリカの核戦争秘密シナリオ」ピーター・プリングル、ウィリアム・アーキン著、山下史訳、朝日新聞社。84, 8, 30

米の天文学者カール・セーガン、生物学者ポール・エーリッヒ、ドナルド・ケネディ、ウォルター・ロバーツが「寒気と暗闇」と題する本を出版。米ソ核戦争が起きれば、人類の11億人が即死、同数が致命傷を受け、地球は氷点下40度になると予測。84, 9

「レーガンの宇宙戦略と軍事衛星」毎日新聞社外信部、築地書館。84, 12, 20

1985年～1994年

広島女高師付属山中高女の同窓生有志20人が、勤務先や学校で被爆した旧友を追跡調査し「追悼記—1冊の貯金通帳番号控えより」を自費出版。85, 1, 10

東広島市県立加茂高校3年生が、肉親らの戦争、原爆体験記「父母の現代史」まとめる。85, 2

ジャーナリスト関千枝子さんが「広島第二県女二年四組 原爆で死んだ級友たち」を筑摩書房から発刊。被爆死した級友39人と教師3人の遺族を8年がかりで追跡。85, 2

栗原貞子さんの詩に、画家の吉野誠さんが版画を添えた中高校生向け反核詩画集「ヒロシマ」が出版。85, 3

元長崎放送記者の伊藤明彦さんが、被爆者の体験をテープに収めた「声の被爆体験集」を東京、札幌、金沢の図書館など4カ所に寄贈(計13ヶ所)。被爆者を訪ね歩いた14年間の活動にひと区切り。85, 3, 26

被爆体験記「原子雲の下で 原爆被爆40周年」(呉原爆被爆者友の会仁方支部編集)が発刊。85, 4, 10

民話作家の山本真理子さん(吹田市在住)が被爆体験を書いた児童文学「広島の子供」の英訳版を出版。85, 4

書き下ろしの「原爆児童文学集」(全20巻)が汐文社から刊行。日本児童文学者協会広島支部が全国の作家約200名に協力を呼びかけ、長短編32編を収録。85, 4

詩人峠三吉の原爆詩集を吹き込んだカセットテープ「にんげんをかえせ」が完成、5月1日発売へ。85, 4

長崎市が12年前から編集をすすめてきた「長崎原爆戦災誌」(全5巻)の第3巻が刊行。85, 4, 30

広島の被爆者で国連本部財務審議官の河内朗さん(広島市出身)が、原爆投下の真実を追う「ヒロシマの空に開いた落下傘」を大和書房から出版へ。85, 5

広島市西区の福島地区被爆者の会が「いのちあるかぎり—原爆と未解放部落」を出版。85, 5, 20

広島原爆養護ホームが入所者の被爆体験をつづった「紙碑 被爆老人のあかし」第2集を刊行。56人の体験収録。85, 5, 25

「原水爆禁止広島母の会」機関紙の「ひろしまの河」を1冊にまとめ刊行。被爆者の日誌忍さんらが1961年の第1号から休刊までの19冊を合本。85, 6

被爆者の名越様さん、死亡した二男の闘病生活や母としての思いをつづり「ヒロシマ 母の記」出版。85, 6, 16

広島主婦同盟の被爆体験集「語り継ごう 業火の中の叫び」が出版。85, 6, 17

「核の冬」増田善信、草友出版。85, 6, 20

故永井隆博士の遺児、筒井茅乃さん(京都府八幡市)が被爆の悲惨さや父の思い出をつづった「娘よ、ここが長崎です—永井隆の遺児 茅乃のねがい」を出版。85, 7

原爆児童文学「白い町ヒロシマ」(原作・木村靖子さん)を広島女学院中学の2教諭が英訳し発刊。85, 7, 5

36年前に米で出版された広島の被爆者加藤裕子さん(東京都在住)の英文体験記「My Mother Died In Hiroshima(私の母は広島で死んだ)」を、広島市の会社社長松夫明さんが日本語訳し出版。85, 7

広島大学名誉教授の森滝市郎さん(原水禁国民会議代表委員)の日記を基にした「ヒロシマ 40 年—森滝日記の証言」(中国新聞社編)が平凡社から出版。85, 7, 11

広島市安佐北区白木町の白木老人クラブ連合会が「原爆回想記」を発刊。85, 7

広島市安芸区船越原爆被害者の会と NTT 海田電報電話局が、被爆体験記の朗読が聞けるテレホンサービス「ひろしま原爆語り部テレホン」を開始。85, 7

広島県山県郡千代田町の原爆被害者の会の被爆体験記「原爆」が完成。198 人が手記。85, 7, 13

新日本婦人の会広島県本部の被爆体験集「木の葉のように焼かれて」第 19 集、85, 7, 16。第 20 集、86, 7, 26

「平和のためのヒロシマ通訳者グループ(小倉桂子代表)が外国人むけに和英辞典「ヒロシマ・ハンドブック」を編集、刊行。原爆用語 800 語を英訳。85, 7, 22

「戦後軍縮交渉と核問題」吉岡吉典、新日本新書。85, 7, 25

「原爆を許すまじ・世界の空へ」(木下航二氏編)があゆみ出版から発刊。85, 7, 25

大竹市の主婦枝松きみ子さんが歌文集「被爆農婦を生きる」を出版。反核の願いを託す 350 種。85, 7, 25

広島県山県郡大朝町の原爆被害者の会が被爆体験記「平和への願い」を出版。88 人が手記。85, 7, 25

「核の冬 第三次世界大戦後の世界」カール・セーガン他、野本陽代訳、光文社。85, 7, 30

被爆 40 周年事業として長崎市が編さんした「原爆被爆者証言集」英語版(A5 版、232 ページ)が完成。世界平和連帯都市市長会議出席者用の写真集「被爆 40 周年長崎」(英語版と日本語版)も出版。85, 7, 31

広島県双三郡三良坂町の原爆被害者の会が手記集「百日紅」を発刊。187 人が惨状をつづる。85, 8

季刊「ヒロシマ・ナガサキの証言」第 15 号が発行。「在韓被爆者 40 年目の証言と告発」など特集。85, 8, 2

広島県山県郡千代田町の原爆被害者の会の記録集「原爆—追憶」が発刊。85, 8, 6

広島県神石郡原爆被害者協議会の被爆 40 周年記念誌「ピカドン—被爆の軌跡」発刊。85, 8, 6

広島県山県郡大朝町原爆被害者の会が編集した被爆体験記「平和への願い」発刊。85, 8, 6

広島市が被爆 40 周年記念事業で編集した「広島被爆 40 年史・都市の復興」が刊行。85, 8, 8

益田市原爆被害者の会が会員の被爆体験をまとめ「ピカ—益田からのヒロシマ・ナガサキ」を出版。島根県で初の証言集。85, 8

東広島市志和町の浄土真宗報専坊の仏教婦人会が被爆証言集「ヒロシマの長い一日—安芸門徒の原爆体験」を刊行。2 冊目。85, 8, 27

広島市安佐北区可部町の浄土真宗本願寺 10 カ寺が「被爆40年 追悼の記」を発刊。85, 9

「核の冬」M・ロワン・ロビンソン、高榎堯訳、岩波新書。85, 9, 20

YMCA 国際平和研究所が記録集「平和を創る」を勁草書房から発行。核問題や第三世界との関係、平和教育実践などまとめる。85, 11

広島県歯科医師会が被爆体験集「閃光の証言」を出版。24 編を収録。85, 12, 1

広島市こども図書館が、収録した原爆関係の本から子供向け 200 冊を選び、目録「子どもたちへの原爆を語りつづ本」を出版。85, 12

国鉄広島駅前で核実験抗議の座り込みを続けてきた「国鉄退職被爆者の会」代表幹事の故竹田博勝さんが編集した冊子「反核座り込み—広島駅前 10 年の歩み」が完成。85, 12, 4

広島市内の電車内で被爆した人の手記集「電車内被爆者の証言」が広島電鉄から出版。乗客 58 人と復旧一番電車の車掌堀本春野さんらが寄稿。85, 12, 15

広島市老人クラブ連合会が被爆体験集「私たちの思いを次世代へ」を発刊。85, 12, 19

大阪府被団協が被爆者 51 人の体験記「被爆体験と過去・現代・未来を綴る」を刊行。86, 1, 18

広島市良い本をすすめる母の会(住吉和子会長)が、文集「さわらび」の被爆 40 周年特集号を発行。86, 2, 3

「原爆児童文学集」(東京・汐文社)全 30 巻が刊行。86, 3

「非核の政府への道」畑田重夫、田沼肇監修、学習の友社。86, 5, 6

広島県が被爆 40 年誌「原爆被爆者救援のあゆみ—被爆者白書」を発行。86, 5, 19

被爆 40 周年を機に NHK 広島放送局の呼びかけで全国の被爆者が寄せた手記集「いつまでも絶えることなく」が出版。86, 5

「核の時代を読む 日常生活の視点から」剣持一巳、平凡社。86, 7, 10

広島県佐伯郡廿日市町教育委員会が町内で被爆者援護にあたった 64 人の証言「熱い波」を出版。86, 7

中国新聞社が「年表 ヒロシマ 40 年の記録」を出版。86, 7, 21

広島県被団協の被爆体験集「被爆四拾年」が完成。86, 7, 21

原爆投下直後、救援活動にあたった旧陸軍野戦船舶本廠の暁部隊の元隊員らが体験手記集「閃光～その救援」を出版。86, 7, 23

朝日新聞大阪社会部が「手記 被爆者たちの 40 年」を出版。86, 7, 30

「ロスアラモスからヒロシマへ～米原爆開発科学者の妻の手記」(フィリス・K・フィッシャー、橘まみ訳) 発行。時事通信社。86, 8, 1

「原爆裁判～核兵器廃絶と被爆者援護の法理」(松井康治著) 出版。新日本出版社。86, 8, 5

広島医療生協原爆被害者の会が体験集「ピカに灼かれて」第 9 集発行。86, 8, 6

広島県山県郡芸北町の原爆被爆者友の会が体験集「原爆の追憶」出版。86, 8, 6

山口県原爆被爆者福祉会館ゆだ苑が「語り～山口のヒロシマIV」発行。86, 8, 6

『原爆ヒーロー』エザリーの神話」(佐藤とよ子著) 出版。朝日新聞社。86, 8, 6

愛知県原水爆被災者の会婦人部「原爆、忘れまじ～ヒロシマ・ナガサキ被爆体験手記集」第 2 集発行 86, 8, 15

広島・長崎証言の会が「ヒロシマ・ナガサキの証言 86 夏号」発行。86, 8

広島・長崎証言の会が出版してきた季刊誌「ヒロシマ・ナガサキの証言」が第 21 号で廃刊へ。長崎側編集責任者が病気。87, 3

広島・長崎証言の会が出版してきた季刊誌「ヒロシマ・ナガサキの証言」の終号(通算 21 号)刊行。5 年の歴史に幕。「ヒロシマ・ナガサキの群像」のタイトルで 55 人の被爆者が「遺言」として掲載。1982 年 1 月創刊。87, 7, 13

「原爆被害者援護法～反原爆論集 II」(石田忠著)。未来社。86, 8, 20

広島県退職婦人教職員の会が戦争体験手記「失った日から」を発行。86, 10, 22

ろうあ者でべつ甲細工職人の長崎市の池田杉男さんが原爆漫画「ノーモア・ろうあ被爆者」を出版。86, 11, 14

核禁広島県民会議が被爆手記集「原爆と私」出版。86, 12, 1

広島市西区の三篠公民館が住民の被爆体験記「水！水！」第 4 集を発行。大芝婦人会員 2 人の手記。87, 1

漫画家中沢啓治さんの原爆漫画「はだしのゲン」が連載開始から 14 年ぶりに完結。1973 年 6 月から「少年ジャンプ」に 1 年半連載。その後、市民運動の月刊誌や評論雑誌などに続編。最終回は日教組の機関紙「教育評論」2 月号(2 月 1 日発行)75 年から出版の炭鉱本も 3 月初め、第 10 巻を刊行し完結。87, 2, 1

広島女性史研究会が「ヒロシマの女たち」を発刊。87, 2

「核兵器と科学者の責任」C・Gウイラマンリー著、原善四郎、桜木澄和訳、中央大学出版部。87, 2, 10

広島アララギ会が 1986 年 4 月 21 日になくなった大平数子さんの遺歌集「大平数子歌集」刊行。87, 4

長崎市の手話グループ、全国手話通訳問題研究会長崎支部が 1986 年に発刊したろうあ者の被爆体験記「手よ語れーろうあ被爆者の証言」の英語訳「SILENT THUNDER」が完成。7 月にフィンランド・ヘルシンキで開かれる「第 10 回世界ろうあ者会議」で配布へ。87, 4

中国で広島の子供たちの原爆体験手記集「原爆の子」翻訳へ。翻訳者は北京大教授の張光珮さん。広島大の沖原豊学長が仲介。87, 4

「SDI スターウオーズの科学・政治・経済」日本科学者会議編、大月書店。87, 4, 27

児童文学作家の大野允子さんが原爆でなくなった広島の子どもたちを追憶する原爆童話「いないいない、いないいない、四つのひろしま物語」を刊行。国土社。87, 6

広島市医師会の初代会長で自からも被爆しながら市民の治療に当たった故今川卓治医師の体験記「被爆医師今川卓治」が出版。87, 6

米のバーバラ・レイノルズさんの英文の手記「ハトと不死鳥」(THE PHOENIX AND THE DOVE)を「長崎を世界に伝える会」(秋月辰一郎会長)が出版。87, 6

広島市の小学校教諭宗田勝さんが、被爆死した父親の被爆体験を「熱い風」と題し 40 枚の絵と 10 ページの証言記録にまとめ

る。87, 8

愛知県原爆被災者の会婦人部(亀沢深雪代表)の手記集「**原爆、忘れまじ**」第3集が完成。87, 8, 3

原爆で壊滅的な打撃を受けた中国新聞社の復興を描いた『**もうひとつのヒロシマ**』が、東京の社会思想社「教養文庫」で出版。
87, 8, 3

被爆した両親から疎開先に届き、兄妹2人で戦後を生き抜く支えとなった父母の手紙を埼玉県新座市の兄、八尾洋二さんと鳥
取市の妹、鈴木咲子さんが「**撫子**」と題し出版。87, 8

原爆で両親と姉妹の4人を失った広島市の小笠邦久さんが「**ヒロシマという名の街で**」を自費出版。87, 8

原爆詩人峠三吉のおい、三戸頼雄さん方で三吉氏の大量の日記や草稿が見つかる。「ちちをかえせ ははをかえせ」の原型と
見られる草稿「**生**」も。87, 9

「ネバーアゲイン・キャンペーン」(NAK)を提唱、民間平和大使派遣運動など取り組む兵庫県宝塚市の北浦葉子さんが平和活
動の体験記「**チャンスの前髪をつかめ ヨーコのアメリカ大陸平和行脚**」出版。87, 10, 15

非核自治体運動の歴史や地域での実践例などをまとめた「**非核自治体—抗議・学習・連帯**」が出版。森田俊男日本平和教育
研究協議会代表委員編集。87, 10

広島銀行総務部管理課長の田辺良平さんが「**広島の金融復興記—ある銀行の8月6日以後**」を出版。87, 11

広島市出身でオーストラリアに移住した児童文学作家森本順子さんが「**My Hiroshima**」を出版。87, 11

兵庫県芦屋市で平和運動に取り組む中学教諭の岡田竜一さんが、広島・長崎に関する蔵書 1, 246 冊の図書目録を作り利用
呼びかけ。87, 12

広島市佐伯区五日市町三宅地区の「三宅のルーツを探る会」が原爆体験記集を出版。88, 1, 27

被爆エノキの世話をしている広島市基町小学校の子どもたちの姿を絵本にと、童話作家の長崎源之助さんと画家の二俣英五
郎さんが取材。7月1日東京の童心社から出版。88, 2, 1

長崎県原爆被爆二世教職員の会が三菱長崎兵器製作所大橋工場で被爆した人たちの手記を集めた「**長崎精機原子爆弾記**」
を39年ぶりに復刻。大橋工場では当時、約6,000人が働き2,300人が犠牲に。88, 2, 8

原爆被害者相談員の会(鈴木勉会長)が「**ヒバクチャーとともに生きる**」第6号を発行。88, 3, 16

全国原爆被爆教職員の会(石田明会長)が「**被爆教職員—ここまで生きてきて**」を発行。88, 3

広島市のアマチュア人形劇グループ「なかよし」代表の徳永弥さんが原爆を扱った自作の脚本4本を集め「**ヒロシマのおじぞ
うさん**」を自費出版。88, 4, 12

宇部市・小野田市原爆被爆者協議会(竹内一作会長)が、会員66人の被爆体験をつづった「**21世紀への伝言**」を発行。
88, 6, 30

反戦被爆者の会の小西ノブ子元会長の遺稿集「**炎の巡礼者**」が刊行。広島電鉄本社で被爆、後に学徒動員中に被爆した一
人息子を失う。88, 7

中国新聞労組が、原爆でなくなった従業員の遺族からの聞き取りを記録した「**消えたペン**」出版。126人の犠牲者のうち中国新
聞72人と合同新聞(現山陽新聞)の遺族1人から取材。汐文社。88, 7, 23

峠三吉氏らが編集した詩集「**原子雲の下より**」(1952年)の未収録作品の一部28編を「暮らしの手帳」8・9号。87年に峠氏の親
類宅に眠っていた419人分、訳500編が見つかり36年ぶりに日の目。88, 7, 25

原爆をテーマにした川柳句集として広島川柳会が1956年に初めて出版した「**きのご雲**」が、会長だった広島市の森脇幽香里
(本名馬場文代)さんの手で復刻。88, 8

児童文学者の山口勇子さんが小説「**ヒロシマの火**」を出版。福岡県八女郡星野村の元陸軍兵士山本達男さんが被爆直後の広
島から持ち帰った原爆の火がテーマ。新日本出版社。88, 8, 13

長崎の証言の会(鎌田定夫長崎総合科学大平和文化研究所長)が、ヒロシマ・ナガサキの声第2集「**証言1988**」を刊行。88, 8

広島医療生活協同組合の被爆者で作っている生協原爆被害者の会(会長丸尾博広島共立病院院長)が、被爆体験記「**ピカニ
灼かれて**」第11集を発行。88, 8

元広島市食肉衛生部長、今田忠信さんの被爆馬の研究が英訳され「**県獣医学会雑誌第3号**」に掲載。世界60カ国の獣医師
会に送付へ。88, 9

広島市原爆被害者協議会井口支部が「**許すまじ被爆体験記**」を刊行。88, 10, 20

庄野直美広島女学院大教授編著の「ヒロシマは昔話か—原水爆の写真と記録」(新潮文庫)のイタリア語版「LEREDITA DI HIROSIMA(広島遺産)」がイタリア・チッタデーラ出版社から発刊。英語版に次ぐ。88, 12

童画家はらみちおさん(広島市東区)の絵本「ピカドンたけやぶ」が児童オペレッタに。小田健也さんが脚本、藤村記一郎さんが作曲。89, 2, 5

旧広島第一陸軍病院教育隊近藤隊の「五月戦友会」が、衛生兵の元隊員 37 人の被爆手記集「五月萌ゆる時」を出版。同隊は初年兵 54 人が被爆死。89, 4

原爆、戦争を体験した地元画家 7 人が「原爆絵本シリーズ」を競作。89, 4, 5

「長崎の証言の会」編集の「長崎の証言双書・第 1 巻」完成。被爆 50 周年までに全 20 巻刊行予定。89, 4, 17

東京在住の詩人石川逸子さんが広島市の詩人大原三八雄さんが 1966 年から 17 年間、発行した「広島通信」全 68 号を 1 冊の単行本に復刻出版。89, 5

「核言集」塩田庄兵衛、井手洋、安斉育郎編著、大月書店。89, 6, 19

峠三吉氏の研究家などで作る「被爆実態調査会」(山元敏之代表)が、「新編8-6 少年少女詩集 原子雲の下より」を亜紀書房から出版。1952 年に出た旧編 121 点中の 65 編に新発見の未発表分を加え 196 編を掲載。原稿を発見した「広島文学資料保全の会」(好村富士彦代表)が「無断出版」と抗議。89, 6, 22

原爆で 2 人の子どもを失った広島市の語り部、故坂本文子さんの遺稿・追悼文集「紅梅」が完成。89, 7

広島市の医師原田東岷氏が原爆を素材とした 4 冊目の著書「ヒロシマのぼら」を出版へ。未来社。89, 7

広島市医師会が被爆医療の歩み「ヒロシマ医師のカルテ」を発刊。「広島市医師会だより」に 1970 年から 88 年までに掲載した原爆関係記事から 109 編を収録。89, 7, 22

「ピカ資料研究会」(田原伯代表)と全国在日朝鮮人教育研究協議会が「資料・韓国人原爆犠牲者慰霊碑」を出版。89, 7, 26

日本被団協が国の 1985 年被爆者実態調査に合わせて実施した「原爆被害者調査」の自由記述部分から、300 人の肉親の被爆死について書かれた部分をまとめ「被爆者の死」を発刊。89, 7

広島被爆当日、大阪憲兵隊司令部から隊員 150 人とともに広島市に入った当時の憲兵隊長、富田家睦さん(三重県松阪市)が「無量寿への道 絶望から光明へ—被爆者の記録」を出版。89, 7

広島市の児玉辰春さんが被爆死した中学生の事実にもとづく「まっ黒なおべんとう」を出版。同市佐伯区の折免シゲコさんと二男の滋君の物語。89, 7

広島県手話通訳問題研究会が聴覚障害者の被爆体験をまとめた「生きて愛して・目で聞いたもうひとつのヒロシマ」を出版。広島市の手話通訳ボランティア仲川文江さんが 1981 年から 7 年かけて聞き取り。89, 8

広島市の榎野譲さんがヒロシマをテーマにした構成詩「水辺の祈り」を発刊。89, 8

山口県被団協会長でアララギ派歌人の竹内一作さん(宇部市)が原爆歌集第 6 篇「21 世紀への遺言」を出版「閃光は一瞬にして広島を暗めたり拡がり昇る原子雲の下」89, 8

福山市の熊谷豊和さん、戦争の傷跡を背負う少年が主人公の児童文学「チビ兵行進曲」出版。汐文社。89, 8

ろうあ被爆者の証言「手よ語れ」のビデオ版が全国手話通訳問題研究長崎支部(宮本美子支部長)によって完成。89, 8, 5

全電通原爆被爆者協議会が組合員の被爆体験記「原子雲の下に生き続けて」を英訳し出版。「LIVING UNDER THE ATOMIC CLOUD」89, 8, 7

愛知県原水爆被災者の会婦人部(亀沢深雪部長)が、手記集「原爆忘れまじ」をまとめる。89, 8

日本赤十字社広島県支部が、被爆者救護などをつづる「赤十字物語—広島県支部百年の歩み」を発行。89, 8

広島県眼科医会が原爆後障害の研究・治療の歩みをまとめた「広島県眼科医会史」を発行。89, 9, 15

核戦争防止国際医師会議(IPPNW)広島大会で被爆体験を話す 8 人の被爆者の証言集の英語版が完成。広島県歯科医師会が 1985 年に出版した「閃光の証言」の英訳版もできる。89, 10

旧陸軍船舶司令部(暁部隊)野戦船舶本廠の企画部主任だった又野宏純さんが、被爆当時の同部隊の活動を自費出版し同部隊の指揮所が置かれていた広島市立神崎小学校(国民学校)に寄贈。89, 12, 15

山口県教育庁総務課長補佐の吉次薫氏が被爆地ヒロシマをテーマに句集「流灯」を自費出版。90, 1

原爆詩人峠三吉氏の遺族が、自筆原稿や日記、書簡集などの資料 3,087 点を広島市理知中央図書館に寄贈。90, 3, 7

広島県立女子専門学校(現県立広島女子大)2 年生で両親らとともに被爆死した稲毛恒子さんの日記や所管を、姉で東京都の

主婦山崎よし子さんが「水島の春」と題し自費出版。90, 3, 20

「被爆体験証言者交流のつどい」が語り部のテキスト「若い世代に被爆体験を語りつぐために～原爆被害のあらまし」を発刊。90, 3, 26

作家原民喜の「夏の花」、大田洋子の「屍の街」、詩人峠三吉の「原爆詩集」を英語編纂した「ヒロシマー三人の証言」が米プリンストン大出版社から刊行。90, 4

広島市中区吉島東学区連合婦人会が被爆体験集「閃光パートⅡ」を刊行。16人が体験寄せる。90, 4

千田夏光著「錠光如来」 汐文社。90, 5

被爆体験を東京の小学校で教えてきた被爆教師畑島喜久生さんが「授業＝ナガサキ」を出版。90, 5

広島少年・少女の手記「原爆の子」(長田新編)が上下2冊の岩波文庫となり、刊行。1951年の単行本発行以来、部数は10万部をこえ、世界10数カ国で翻訳・出版。90, 6, 18

広島被爆者でもと国連財務官河内朗さんが原爆投下を告発した「ヒロシマの空に開いた落下傘」を米で英訳出版。タイトルは「Why I Survived the A-Bomb」90, 6

岡山県の西大寺地方原爆者の会(妹尾要会長、167人)の「原爆被爆体験記」が完成。90, 6, 21

広島原爆養護ホーム「舟入むつみ園」で90歳になる和田たかさんが句集「被爆馬」を出版。90, 7

広島市佐伯区の主婦坂田朔子さん、原爆で夫と長女を失った母の大辻勝子さんの半生を絵本に。90, 7

欧州や日本など9カ国、12人の市民がレジスタンス運動や被爆体験などを手記で寄せ、英BBC放送が放送した「チルドレン・アット・ウオー」の翻訳版「ぼくの町は戦場だった」が平凡社から出版。90, 7, 20

「原爆はこうして開発された」山崎正勝、日野川静枝編著、青木書店。90, 7, 25

峠三吉の未発表の詩や被爆児童らの詩など71篇を収録した「行李のなかから出てきた原爆の詩」がくらしの手帖社から出版。1952年発刊の原爆詩集「原子雲の下より」の未収録作品を広島文学資料保存の会(好村富士彦代表幹事)が峠の親類宅で見つけ、編さん。90, 8, 1

広島県朝鮮人被爆者協議会の李実根会長が交流した修学旅行生らの感想文や自らの講演録「アンニョンハシムニカーお元氣ですかー李さん」を自費出版。90, 8

旧長崎医科大付属病院の看護婦や遺族らが被爆体験記「夾竹桃よ永遠にー原子爆弾犠牲者の霊に捧ぐ」を出版。故人をしのぶ77編を収録。90, 8

広島朝鮮中高級学校講師の朱碩さんが被爆体験や新聞投稿「被爆朝鮮人教師の戦後史」を出版。90, 8

福山市原爆被害者の会(吉田悦三会長、1,000人)が被爆45周年を記念し発刊した「福山市原爆死没者慰霊碑建立記念誌・原爆体験記」を、1989年に福山市の中央公園に建立された慰霊碑に奉納。90, 8, 6

山口県原爆被爆者福祉会館ゆだ苑が10年がかりで県内被爆者の証言を集めた「語りー山口のヒロシマ」の最終号発刊へ。計7集。44人が証言寄せる。90, 9, 5

広島市西区南観音地区の住民が被爆体験記「被爆45年目の証言」まとめる。90, 10

徴用工として東洋工業で働いた被爆韓国人鄭忠海さんの体験をつづった「朝鮮人徴用工の手記」が出版。広島市の井下春子さん訳。90, 11

宇部市・小野田市原爆被爆者協議会(竹内一作会長)が被爆証言集「21世紀への伝言Ⅱ」を出版。ヒロシマ学習した中学生の作文も併載。91, 2, 2

長崎の証言の会が、長崎市の被爆直後の援護報告や日記、公文書類を集めた長崎の証言双書「地球が裸ニナッタ」を出版。91, 2, 14

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世の来広10周年を記念し、「カトリック正義と広島協議会」(代表、三木篤実カトリック広島教区長)が神父や信者らの被爆証言を集め「戦争は人間のしわざです」を出版。91, 2, 25

広島原体協(会長、平岡広島市長)が「30年のあゆみ 被爆者、市民とともに」を発行。91, 3, 31

大阪市原爆被害者の会が「被爆45周年 被爆者～大阪に生き抜いて」を発行。91, 5, 19

日本被爆協中央相談所の肥田舜太郎理事長が、原爆の悲惨さと核兵器廃絶を訴え海外154都市を回った体験記「ヒロシマ・ナガサキを世界へ」(あけび書房)を出版。91, 6, 20

長崎市が1977年から85年にかけて編さんした「長崎原爆戦災誌」のダイジェスト版「ナガサキは語りつぐー長崎原爆戦災誌」

を刊行。91, 7, 23

旧広島文理科大学で学んでいたマレーシアの南方特別留学生アブドル・ラザクさんの被爆体験記「**わが心のヒロシマ～マラヤから来た南方特別留学生**」(勁草書房)が翻訳・出版。マレー語の原著「**広島**の灰」は1987年にマレーシア国立国語・図書研究所が出版。91, 7, 25

持田郁子さんが「**夏草～ひろしまおぼえ書き**」(勁草書房)を出版。91, 7, 30

三原市原爆被害者の会が「**原爆体験記 1991 年**」を出版。府中市原爆被害者の会(森原正生会長)が被爆体験記「**原爆**」第3集を発刊。91, 8, 6

広島県原爆被害者協議会温泉津支部が体験集「**劫火の『ヒロシマ』**」を発刊。91, 8, 12

1985年度ノーベル平和賞を受賞した核戦争防止国際医師会議(IPPNW)ノバーナード・ラウン会長が中国新聞に寄贈した核被害の実態を訴えた連載「**病める地球を癒すために**」(田城明氏訳)が出版。91, 10, 21

旧制広島二中の昭和24年卒業生が被爆体験記「**ポプラは語り継ぐー8・6前後の記録**」を刊行。91, 12, 3

大江健三郎さんが「**ヒロシマの『生命の木』**」(日本放送出版協会)を出版。91, 12, 20

1960年に設立された原爆被爆者別府温泉療養研究所が「**設立 30 周年記念誌**」を発行。92, 1, 11

現代俳句協会会員の小田保さん(尾道市防地町)が句集「**黒雨以後**」を自費出版。92, 2, 11

原爆投下直後、広島上空を飛んだ旧陸軍第12飛行師団司令部の先任将校安沢松夫さん(徳山市上村)が、体験記などを同市の中央図書館に贈る。92, 3, 24

長崎原爆の体験などを絵で紹介した「**長崎平和絵本シリーズ**」(全6巻)が完成。汐文社。92, 3

大阪の音訳ボランティアグループが長崎被爆者の手記「**明日への遺産**」(長崎原爆被災者協議会刊)を、劇団民芸の南風洋子さんらの協力で録音。92, 4

広島平和文化センターが、平和冊子シリーズ8冊目として「**平和記念式典のあゆみ**」を発行。広島大原医研の宇吹暁助教授がまとめる。92, 5

広島市の児玉辰春さんが原爆資料館に展示されている被爆三輪車を題材に「**仲ちゃんのさんりんしゃ**」を執筆。6月末、童心社から出版。92, 5 94, 2, 22 この絵本が英訳され、ビデオ絵本に。

在韓被爆者の救援に努めた故河村虎太郎氏の遺稿集「**医療と信仰**」が、遺族の手で出版。92, 6, 9

被爆直後、広島赤十字病院(現広島赤十字・原爆病院)で治療を受けた被爆者や当時の医師、看護婦らが手記集「**いのちの塔**」を出版。92, 6, 12

神奈川県藤沢市の主婦、石浜みかるさんが、治安維持法違反で広島刑務所に服役中に被爆した父の故義則さんの手記をもとに小説「**あの戦争のなかにぼくもいた**」を出版。92, 6

作家の大浦ふみ子さんがルポルタージュ「**長崎原爆松谷訴訟**」を出版。92, 6

詩人の栗原貞子さんが最近10年間に新聞や雑誌に書いたエッセイをまとめ「**問われるヒロシマ**」出版。92, 7

広島平和文化センターの「**被爆者証言ビデオ**」1992年度分が完成。耳の不自由な被爆者や原爆投下の2日後、科学者らを広島まで空輸した神奈川県藤沢市の元パイロット水間博志さんら50人が証言。計371人350本に。92, 7, 22

東広島市で働くペルー人のビクトル・ラサルテさんが「**佐々木禎子にささげる詩 広島 1945年8月6日 8時15分**」と題すスペイン語の長詩を書く。92, 7

4年がかりで「**日本赤十字社広島県支部百年史**」が完成し、出版。92, 7

広島川柳名誉会長・広島女性川柳会長の森脇幽香里さん被爆の現状をおさめた「**捧げる**」を発表。92, 8

広島医療生協原爆被害者の会が被爆体験記「**ピカに灼かれて**」の第15集を発行。渡日治療で訪れた在韓被爆者5人の証言も含める。92, 8, 5

広島県双三郡田村の原爆被爆者友の会が被爆体験記「**閃光のもとで**」を発刊へ。92, 8

元NHKディレクターの白井久夫氏が「**幻の声 NHK 広島 8月6日**」(岩波新書)を出版。92, 8

原爆詩人峠三吉氏の最期をみとった診療エックス線技師の坪田正夫さんの遺文集「**かのいっばつ**の原爆に」(新樹社)が弟の手で出版。坪田さんは1991, 7, 18、大阪赤十字病院で肝臓ガンのため死去。67歳。92, 8

故長田新博士が編さんした「**原爆の子**」(岩波書店)スウェーデン語版が、現地の生協から出版。海外12番目の翻訳。ストックホルム在住コウコ・ナカジマさんと日本語研究者ヘレナ・エリクソンさんが翻訳。92, 8, 20

「二十一世紀社会と原子力文明」藤家洋一、日本電気協会新聞部。92, 11, 20

1993年1月14日に87歳でなくなった広島市の開業医於母源作氏をしのぶ「面影—原爆ガンと取り組んだ町医者」を肉親らが出版。93, 1, 14

広島市の平和記念公園で故峠三吉氏をしのぶ没後40年の三吉忌・碑前祭。三戸氏在住の姉の今井智恵子さんら130人が参列。93, 3, 7

呉原爆被爆者友の会が創立20周年記念誌「被爆者と戦争を考える子どもたち」を出版。93, 4, 2

被爆語り部沼田鈴子さんの半生を描いた「青桐の下で」が出版。週刊誌記者の広岩近広さんが執筆。93, 4

小説家の中山士朗氏が「原爆亭おりふし」出版。西田書店。93, 6

峠三吉記念事業委員会(代表、丸尾博広島共立病院院長)の依頼で三次市の漫画家岩崎健二さんが原爆詩人峠三吉氏の没後40年を記念し劇画「風のように炎のように 峠三吉」を完成。汐文社から発刊。93, 7, 1

広島県海田教育事務所管内の被爆教師らが被爆証言を集めた「原爆と私」を発刊。93, 7

広島平和文化センターが平和図書シリーズ第9号として「平和学を創る—構想・歴史・課題」を刊行。著者は岡本三夫広島修道大教授。93, 7

広島で被爆した東京在住の著述業水田九八二郎さんが広島と長崎の原爆遺跡や日を紹介した「ヒロシマ・ナガサキへの旅」を出版。中公文庫。93, 7

長崎原爆被災者協議会の山口仙二会長と本島長崎市長が被爆地長崎から若い世代にメッセージを送る「ゆるす思想ゆるさぬ思想」を出版。93, 7

東京在住の神戸美和子さんが被爆体験記「ひろしまの夏」を発刊。草の根出版会。93, 8

広島市の劇作家尾津訓三さんが「占領下における広島県内の文芸活動と検閲」を「広島市公文書館紀要」に発表。原爆関連の検閲は7カ所。93, 8

広島県農協連合会の前身である県農業会の被爆から復興までを県同栄社共済連合会長行広守さんが手記「広島県農業会 被爆の実相」にまとめる。93, 9

旧広島県立西条農学校(現西条農業高校)から学徒動員され被爆した廿日市市の榊井治さんが体験記「私の原爆の記」まとめる。93, 9

放医協がまとめた「原爆放射線の人体影響 1992」の要約版を英訳した「A-Bomb Radiation Effects Digest」発刊。93, 10

韓国の詩人金芝河氏がロシアや日本の放射性廃棄物の日本海投棄を批判する論文「死の海」を朝鮮日報紙に投稿。93, 10, 28

米ジャーナリスト、リチャード・ローズ氏の「原子爆弾の誕生」(1988年ピューリッツァー賞受賞)の日本語訳出版。訳者は神沼二真、渋谷泰一氏。啓学出版。93, 10

東京都被団協(東友会)が結成35周年記念の、被爆者の遺族による手記集「被爆者の死と生」を発行。93, 11

「ザ・サン・ネバーセッツ 世界を覆う米軍基地」ジョセフ・ガーンソン、ブルース・バーチャード、佐藤昌一郎訳、新日本出版社。94, 1, 30

広島市内や周辺市町の被爆者で作る「ヒロシマを語る会」(吉田博直代表)が結成10年を迎え、修学旅行生らへの証言活動の記録集を出版。94, 4, 3

詩人栗原貞子さんの第1詩集「黒い卵」(1946年刊)の英訳本が米で出版。被爆語り部の広島市東区、沼田鈴子さんの半生をつづった「ヒロシマの花—輪物語・沼田鈴子の終わりなき青春」を報道人らが刊行。94, 4

広島市名誉市民で医師の原田東岷さんが、米平和運動家の故バーバラ・レイノルズさんと故ノーマン・カズンズ氏の思い出をつづった著書「平和の瞬間、二人のヒロシマびと」を出版。94, 6, 5

長崎の証言の会が刊行している「平和読本ながさきへの旅」が1983年の発刊以来、19版、18万部に。94, 7

朝鮮人被爆者の記録映画「世界の人へ」(1981年製作、盛善吉監督)のシナリオが8ヶ国語に翻訳されて出版。同時代社刊。94, 8

日本に22年間住んでいたオーストラリアのパウロ・グリーン神父が執筆した故永井隆博士の伝記「ア・ソング・フォーナガサキ」がオーストラリアと欧米で4万部あまり売れる。94, 8

「ヒロシマ・ノート」をはじめ、被爆者の苦悩と核の恐怖を文学テーマにしてきた作家大江健三郎氏にノーベル文学賞決まる。

94, 10, 13

東広島市被爆資料保存推進協議会(五島正三会長)が全国の都道府県の被爆者団体を対象に被爆体験記などの出版についてアンケート調査した結果、ほとんどの団体がすでに体験記を発刊し、新たに出版を予定しているところも多いことが判明。

94, 11, 22

1995年以降

井伏鱒二(93年7月没)の『**黒い雨**』の資料となった「重松日記」等をめぐって、マスコミの間で『**黒い雨**』盗作説』の論議。

1995, 3

長野まゆみ(59年東京生)が、原爆を落とされる日の朝までの市井を時代の雰囲気伝える文体で表現した『**八月六日上々天気**』を河出書房新社より出版。1995, 4

作家・ポライターの太浦ふみ子(41年長崎生)が、長崎での被爆体験を小説に綴った文学作品『**いもうと**』を葦書房から刊行。

1995, 11

95年から劇団「こまつ座」で全国巡演された井上ひさし(34年山形生)の『**父と暮せば**』が単行本化される。広島での被爆に直面した父と娘の対話を戯曲にした作品。1998, 9

林京子(30年長崎生)の中篇小説『**長い時間をかけた人間の経験**』が『群像』に発表される。被爆者としての半生の意味を問う作品。1999, 10

地球上で初めて核爆発実験が行われたニューメキシコ州のトリニティ訪問の体験を題材にした林京子の小説『**トリニティからトリニティへ**』が発表され、『**長い時間をかけた人間の経験**』として単行本化、2005年6月に講談社より文庫本化。2000, 9

キリシタンと原爆を題材にした青来有一(58年長崎生)の小説『**聖水**』が第124回芥川賞を受賞。同じテーマで作者デビュー作の「ジェロニモの十字架」とともに『**聖水**』として文藝春秋より刊行。2001, 1

アメリカのコラムリスト、ボブ・グリーン(47年オハイオ州生)の「原爆を落とした」側からの記録小説『**DUTY**』が日本で翻訳出版される。2001, 7

被爆者の現在と明日への希望をテーマにした林京子『**希望**』が『群像』に発表される。2005年3月に「幸せな日々」などとともに『**希望**』として講談社より単行本化される。2004, 7

大江健三郎(35年愛媛生)が「第2回ソウル国際文学フォーラム」に招かれ、その開会式で、戦争放棄を宣言した日本国憲法を守る立場で「九条の会」の活動を紹介し、核状況下での小説家としての抵抗と希望について語る。2005, 5

黒古一夫(45年群馬生)の評論『**原爆は文学にどう描かれてきたか**』(八朔社)が出版される。2005, 8

田ロランディ(59年東京生)が、『文学界』8月号から被爆体験をいかに今日に受け継ぐかをテーマにした短編『**被爆のマリア**』「**永遠の火**」「**時の川**」「**イワガミ**」を書き継ぐ。2005, 8

田ロランディが史上初の被爆国でありながら「その加害国であるアメリカの戦争に協力している政府」に戸惑いを覚え、被爆者たちから何をどのように引き継がなければならないかという作家として葛藤を作品化。『**被爆のマリア**』として文藝春秋から刊行。2006, 5

大江健三郎が、核状況下での危機と自爆テロを背景にして今日の「希望」を主題にした長編小説『**さようなら私の本よ!**』を講談社より発表。2005, 9

安達千夏(65年山形生)が『すばる』3月号に、被爆者の老女と少年との交流を通して、過去の歴史を今の時代に生かすことの意味を問うた短編小説『**忘れないで**』を発表。2006, 3

青来有一が『文学界』3月号に、幼い娘を失い精神的な痛手を負った主人公が原爆で肉親を失った被爆者と哀しみを共有するという作品『**貝**』を発表。2006, 3

『**夕凧の街 桜の国**』この史代 双葉社。2004, 10 ヒロシマ原爆を扱った三つの短編からなる連作の漫画

3. 音楽

1945年～1954年

作曲家山田耕筰氏が「**原子爆弾に寄せる譜**」を作曲。46, 6, 27

中央合唱団創立。うたごえ運動はじまる。48, 2, 10

広島平和協会主催「平和音楽祭」。「**ヒロシマに寄せる歌**(作詞 イギリスの詩人 東大講師のブランデン作曲 山田耕筰)」など紹介。49, 8, 7

「あの子」永井隆・作詞、木野普見雄・作曲。山里小学校は、爆心地からわずか500メートルの場所にあり、1300人の子どもたち、教師らが犠牲となる。生き残った児童たちによって、原爆体験記「原子雲の下に生きて」が出版され、本の印税で「あの子らの碑」が山里小学校の校庭に建てられた。長崎大学医学部の医師で、自らも被爆しながら治療にあたった永井隆博士が、子どもを亡くした親たちの悲しみを詩にたくし、木野普見雄氏が童心にあふれたメロディをつけました。この曲は昭和24年11月3日、碑の除幕式で発表された。(ナガサキピースファイア貝の火運動HPより引用) 49,11,3

原爆の惨禍と復興をテーマにした交響詩「**広島**」を公開発表。広島中央放送局から全国中継。51, 11, 3

西条八十作詞、古賀政男作曲「**広島音頭**」。52, 4, 5

ピカで焼けよが 涙が降ろが ころろ広島 元気で伸びる..

第一回日本のうたごえ祭典、スローガン「うたごえは平和の力」。東京。53, 11, 29

「**原爆を許すまじ**」(作詞浅田石二、作曲木下航二)が平和運動全国協議会で発表。54, 7, 28

1955年～1964年

「**原爆を許すまじ**」がポーランド・ワルシャワでの第五回世界青年学生平和友好祭の合唱曲に。55, 6, 7

広島県出身の作詞家、石本美由紀の歌「**夏雲は何もいわねど**」が完成。作曲上原げんと。55, 7, 7

夏雲は何もいわねど 青空にただよう愁い あの朝の あの時のあの惨めさを 偲ぶマブタに
涙はあらた ああヒロシマの 八月六日

広島合唱団が峠三吉の原爆詩「**ちちをかえせ...**」を作曲し、ラジオ中国で発表。55, 8, 6

ベルリン・フィルハーモニー交響楽団の指揮者カラヤンが広島市訪問。57, 11, 13

「**千羽鶴にささげるレクイエム**」(作詞米田栄作 作曲山崎登)を中国放送で発表。58, 8, 6

筑城由二作詞、芥川也寸志作曲「**声高く**」青年歌集第七編に収録。60, 12

関忠亮作詞・作曲 「**この声きけ**」青年歌集第七編に収録。60, 12

峠三吉の「原爆詩集」に大木正夫が曲をつけたカンタータ「**人間をかえせ**」第一部を発表 61, 12 (第二部 63, 8, 6 東京で発表)

ポーランドの作曲家クシントフ・ペンデレッキ「**広島犠牲者に捧げる哀歌**」レコード化。日本で販売へ 64, 11

1965年～1974年

歌手の九重佑三子さんが原水爆実験に抗議する歌「**雨になにをしたの**」をうたう。中国放送など。65, 8, 10

「**組曲 ひろしま**」持田勝徳作曲 森脇憲三作詞 広島市公会堂で発表 65, 11, 3

邦楽歌曲「**広島鐘**」 作詞益田玲助 作曲木戸全一 67, 10, 10

「**交響曲 炎の歌**」大阪フェスティバルホールで発表。大阪労音 20 周年記念。作曲外山雄三、作詞土井大助。70, 3, 1

ソ連の作曲家セラフイム・ツリコフが佐々木禎子さんの死を悼む「**日本のツルを折る娘**」を作曲。広島市と県被団協へ贈る。70, 5, 29

林光が原民喜の「**原爆小景**」から混声合唱曲の第二部「**日ノ暮レチカク**」と第三部「**夜**」を作曲。71, 3, 31

元宝塚の葦原邦子が宝塚退団 32 年を記念して東京・岩波ホールで「**原爆被爆者のために**」とヒロシマの歌を中心にリサイタル。71, 5, 31

被爆二世をテーマにした深川宗俊の詩「**愛の歌—ヒロシマの子**」が東京文化会館で東京女声アンサンブル第四回演奏会で初演。作曲安達元彦。73, 2, 20

林光作曲「**原爆小景**」(原民喜作)がレコード化。ビクターから発売。73, 2, 25

仏のシャンソン歌手、ジョルジュ・ムスタキが自作の「**ヒロシマ**」をレコード化。73, 8, 1

広島被爆者団体連絡会議の近藤幸四郎事務局長ら代表 10 人が広島テレビを訪れ、「広島平和音楽祭」実行委員会(古賀政

男委員長)に抗議。①右翼や暴力団と関係があると批判されている美空ひばりが平和のための音楽祭に出演するのは許されない ②平和、原爆の名で歌謡ショウをひらくのはもつてのほか ③長崎の原爆記念日の8月9日に広島で開くのはおかしい。74, 4, 2

広島テレビが広島平和音楽祭の開催要旨に抗議していた広島被爆者団体連絡会議に「音楽祭は平和への願いを音楽で追求するもので他意はない。開催趣旨に反対する歌手はいない」と回答。74, 4, 17

1949年に作られた「ヒロシマ平和都市の歌」の楽譜が広島市の浅野図書館で見つかる。作曲・山田耕筰、作詞・大木惇夫。74, 6

1975年～1984年

広島市出身で被爆者の東京芸大講師川崎優さん(神奈川県茅ヶ崎市)が自らの被爆体験をもとに作曲した「祈りの曲第一哀歌集」を広島市に贈る。75, 2, 1

指揮者外山雄三さんらが記者会見し、被爆者追悼と鎮魂をテーマにした混声合唱とオーケストラのための交響曲「炎の歌」(作詞・土井大助、作曲・外山雄三)を5～8月東京、神戸、名古屋、大阪、広島で公演と発表。75, 2, 3

公演で広島を訪れた米ジャズピアニストのハービー・ハンコックさんが平和への願いを込めて宿舎で作曲したバラード「平和の街のために」を広島市に寄贈。市公会堂での寄贈式で自ら演奏。75, 6, 26

被爆韓国人犠牲者を慰めるため、日本作詞家協会の詩川しづれさん(大阪府枚方市)が作詞し、荒木明さんが作曲した歌「願い星、祈り星」ができる。75, 7

第四回全国平和教育シンポジウム開会式で、音楽構成詩「にのしま」が発表される。三原市三原東高一年、源田えりさんの作詞、作曲家大西進さんが曲をつける。声楽家、相川マチさんが独唱。76, 6, 12

「世界原爆詩集」に収められている大平和子(旧姓山田)さんの原爆詩「慟哭」が歌曲に。作曲は尾上和彦。8楽章20分。楽譜は四ヶ国語に翻訳。77, 7

広島で被爆した作曲家川崎優(神奈川県茅ヶ崎市)の原爆をテーマにした吹奏楽曲「祈りの曲第二『悲歌』」が完成。スイスのウスター音楽祭で発表へ。77, 8

広島市の見真講堂で原爆をテーマにした若手作曲家尾上和彦氏の初リサイタル。歌曲集「慟哭」「オラトリオ・ひろしま」など。78, 6, 19

大阪フェスティバルホールで、大阪のフロイデ合唱団がカンタータ「人間をかえせ」(大木正夫作曲)を公演。79, 7, 31

広島合唱団(熊谷勇二団長)の「平和歌集ヒロシマから」が完成。「原爆を許すまじ」「ひろしま平和の歌」など18曲を収める。79, 8

第7回広島平和音楽祭。森昌子、五木ひろしらが出演。80, 6, 13

被爆35周年記念、第一回長崎平和音楽祭。80, 7, 14

芝田進午広島大教授らがノーモア・ヒロシマコンサートを東京で始めて開く。故永井隆博士の辞世の歌に故山田耕筰が曲をつけた「しろばらの」初演。80, 8, 1

広島市のエリザベート音大ホールで広島県高田郡吉田町出身の坂田誠山氏が尺八リサイタル。「レクイエム・シャーンティ」「片足鳥居の映像」など演奏。81, 7, 27

広島市見真講堂で「原爆犠牲者にささげる音楽の夕べ」。早川正昭「ソプラノと打楽器とコントラバスのための祈り」。林光、関忠亮「川を流れているような」。林学「祈り」。安達元彦「愛の歌—ヒロシマの子」。外山雄三「永遠のみどり」など各氏作曲の作品発表。81, 8, 6

米田栄作の詩「川よとはに美しく」を三枝成章が作曲、男声合唱組曲としてNHK・FMが放送。81, 9, 12

英詩人故エドモンド・ブランデンの詩「ヒロシマ—1949年8月6日に寄せて」を、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世の指示でエリザベト音大のホセ・テホン学長が作曲し、同大定期演奏会で発表。81, 11, 2

「明日への伝言」山川啓介作詞、いずみたく作曲。作曲者は、「子供たちに、世界に！被爆の記録を贈る会」による記録集「広島・長崎」製作の呼びかけ人。記録映画「にんげんをかえせ」では、テーマ曲として使われています。82,

「82年・平和のためのヒロシマ行動」のテーマソングに広島市の被爆二世、県立国泰寺高校2年の洲加本有衣子さん作詞「きいてください」(作曲池辺晋一郎)が決まる。82, 3, 12

東京・日本青年館で「反核・日本の音楽家たち」の設立総会。約150人が参加。運営委員に作曲家の芥川也寸志、いずみたく

氏ら 37 人。82, 3, 20

「反核・日本の音楽家たち」が東京・日比谷公会堂で反核邦楽コンサート。24 日はクラシック、25 日はポピュラーと連続開演。
82, 6, 23

原爆詩人原民喜の詩に作曲家の林光が曲をつけた合唱曲「**新原爆小景**」が完成。82, 7

「**かあちゃん、ぼく生きたかった**」(白血病した名越文樹くん)を黒いパールをつけたペギー葉山が原水爆禁止世界大会で熱唱。82, 8

「反核・日本の音楽家たち」が広島市の県立体育館で初の「広島国際平和コンサート」。ジャンルを超えた演奏から約 500 人が無報酬で結集。約 5,000 人の兆州が大合唱。82, 8, 6

「原爆犠牲者にささげる音楽の夕べ」広島市で開かれ、元宝塚歌劇の葦原邦子さんが初出演。82, 8, 6

福山市の詩吟会「吟詠芦水会」が「**詩吟による鎮魂と平和への祈り**」をレコード化し発売。82, 12, 18

長崎の音楽家や音楽愛好家が「反核・日本の音楽家たち・長崎」を結成。1982 年 3 月に発足した「反核・日本の音楽家たち」の地方組織で、名古屋、京都、大阪に続く結成。83, 1, 23

原爆の子の像のモデルになった佐々木禎子さんをテーマに横浜市の作曲家浜名政昭さんが合唱曲「**折鶴のとぶ日**」を作曲。83, 11

演歌歌手の藤沢浩司さんが反核演歌第 2 弾「**語り部の女**」を吹き込む。1983 年 4 月には原爆乙女をテーマに「**母のいのち**」をレコード化。84, 1, 14

被爆の惨禍を歌った日本のオペラ「**ヒロシマ**」がソ連ラトビア共和国の首都リガの音楽コンクールで最優秀賞。作曲は東京都在住の寺原伸夫さん。84, 4

東京で第 5 回「**ノーモア・ヒロシマコンサート 84**」。芝田進午広島大教授らが企画。84, 8, 2

日比谷野外音楽堂で加藤登紀子らが「**ザ・アトミック・カフェ・ミュージック・フェス**」ひらく。実行委員長はロック雑誌編集の大久保青志。84, 8, 4

広島市の見真講堂で第 5 回「原爆犠牲者にささげる音楽の夕べ」芝田進午広島大教授らの企画。チェロ井上頼豊、ピアノ村上弦一郎ら。84, 8, 6

1985年～1994年

反核日本の音楽家たちコンサート、東京。85, 3, 1

歌声サークル「広島合唱団」が被爆 40 周年記念「核兵器廃絶のためのコンサート」開く。85, 5, 25

日本音楽舞踏会議、東京で反核コンサート。85, 6, 30

被爆二世の公務員洲加本有衣子さん(広島市東区)が書きつづった詩が女声合唱組曲「**ひろしまの詩**」になり、楽譜出版。作曲家の平井哲三郎(鎌倉市在住)が作曲。85, 7

米の指揮者レナード・バーンスタイン氏を迎え、広島市内で鎮魂の「広島平和コンサート」開催。指揮者の大植英次さん(米ボストン在住)も広島出身の糀場富美子さん作曲「**広島レクイエム**」などを指揮。同日朝、指揮者の小沢征爾氏が平和記念公園でコーラスグループと鎮魂曲を合唱、バーン・スタイン氏も加わる。

反核・平和のための能と狂言の夕べ、東京。85, 8, 8

「平和コンサート 2001」(広島青年会義所主催)が開かれ、団伊旧玖磨氏が自作の交響曲第 6 番「**HIROSIMA**」を初演。85, 10, 4

関西詩吟文化協会広島連合が 30 周年記念大会。核の悲惨さを訴える構成吟「**祈り**」を披露。85, 10, 10

白血病で亡くなった被爆二世のわが子を歌った広島市の名越操さんの詩を基にしたソプラノ独唱曲「**あの星がぼく**」が完成。86, 3, 29

広島平和音楽祭が広島市で開催。13 回目で岩崎宏美、本田美奈子さんら出演。歌詞募集ゴールデン・メイプル賞に広島市の萩原志賀子さんの「**風になれたら**」。86, 7, 26

広島市の修道大で「平和祈念コンサート **HIROSIMA**」。南こうせつ、チョー・ヨンピルさんら 5 カ国 29 グループ、200 人が出演。1 万 5 千人が 15 時間に及ぶ徹夜の祭典に酔う。86, 8, 5

広島県民文化センターのノー・モア・ヒロシマ・コンサートには 800 人。フォークソングで反戦・平和を訴える米のピート・シーガーさんが初出演。86, 8, 5

アルゼンチンの女性作曲家オルガクチノタがオルガン組曲「**ノーモアヒロシマ**」を広島市に寄贈。86, 9, 6

広島市の被爆少女を題材にした浅川春男さん作曲のピアノ連弾曲「オリヅル」が東京で披露。86, 10, 3
 東京芸大講師で作曲家の遠藤雅夫さんが原爆詩をもとに合唱組曲「石の焔」を作曲し、明治大学グリークラブの学生が歌う。
 87, 5, 9
 広島合唱団(大野正信団長)が広島市で「核兵器廃絶のためのコンサート」。日本原水協などが1985
 年に採択した「核廃絶へのアピール」に同市のアマチュア作曲家高田竜二さんが作曲。87, 6, 6
 徳山市内のコーラスグループ「コールベリア」が、原爆小頭症の娘を残してなくなった母の真情を組曲「母の叫び」に。沖縄県
 那覇市の芝憲子さん作詞。山口県美東町の宮原豊さん作曲。87, 6, 14
 広島市立翠町中学の江種祐司教諭らが、代表的な平和の歌 37 曲の歌詞、楽譜に伴奏をつけた伴奏譜を広島平和教育研究
 所から出版。「原爆を許すまじ」「夾竹桃のうた」「にのしま」「青い空は」「死んだ女の子」など。87, 6, 23
 仏マラコフ市のミッシェル・シボ助役とミホ・シボ・シマ夫人が広島市を訪れ、広島県高校生平和ゼミナールの生徒に仏で作
 られた新曲 2 曲の楽譜を手渡す。ミホさんが作詞作曲の「SOS・マイラブ」と仏在住コンゴ人ムツリア・ムソングさん作詞、作
 曲の「アポカリプス・ヒロシマ」。87, 7, 17
 アマチュア・オーケストラ新広島フィルハーモニー管弦楽団が広島郵便貯金会館ホールで第一回平和コンサート「レクイエム
 in ヒロシマ」。仏作曲家デュリュフレの「レクイエム」を演奏。87, 8, 4
 第二回目は 88, 8, 4
 広島市の世界平和記念聖堂で、横浜市のアマチュアコーラス「太陽の国合唱団」、藤原歌劇団合唱部、お茶の水女子大 OG 合
 唱団がベルデイ作曲「レクイエム」を合唱。87, 8, 4
 広島市の女声合唱団「コール・セシリア」が、モーモア・ヒロシマコンサートで原爆小頭症の娘に寄せる母親の思いをつづった
 合唱組曲「百合子のうた」を披露。87, 8, 5
 広島市で平和コンサート「HIROSIMA87〜97」。安全地帯、南こうせつ、尾崎豊さんらが参加。87, 8, 5
 京都で主婦ら 800 人が「1,000 人で平和を歌うつどい」開く。作曲家林光さんの新曲「生命の樹、空へ」を合唱。87, 8, 6
 広島市で原爆犠牲者の鎮魂と平和への祈りをささげる「平和コンサートの夕べ」開催。団伊玖磨氏の交響曲第 6 番
 「HIROSIMA」など 4 曲。87, 8, 6
 高校生平和ゼミナールが広島市で初の反核コンサート「ノー・ニュークス・コンサート」開く。87, 8, 6
 葦原邦子さんが東京で 16 年目の「ノーモア・ヒロシマを歌う」コンサート。収益金は原爆患者の治療用に寄付。「宝塚時代、一
 年後輩で相手役だった園井恵子さんが原爆で悲惨な死を遂げ、それ以来、園井さんの魂を慰めるため何かしなければなら
 ないと・・・」87, 10, 6
 広島合唱団(大野正信団長)が広島市で「核兵器廃絶のためのコンサート 88」。1985 年から毎年ひらく。88. 6. 18
 世界的なジャズドラマー、エルビン・ジョーンズさんが広島市で「ジョン・コルトレーンにささげる至上の愛コンサート」。88, 6, 22。
 翌日 50 万円を広島市に広島市で「第 15 回広島平和音楽祭」(同実行委員会、広島テレビ主催)。第 1 回に参加した美空ひ
 ばりさんが 2 回目の参加、「一本の鉛筆」などを披露。88, 7, 29
 広島市で「第 9 回ノーモア・ヒロシマ・コンサート」(同実行委員会主催)米の反戦歌手フレッドスモールさんが参加。88, 8, 5
 東京・町田市で被爆女性神戸美和子さんの半生を描いた合唱組曲「いのちの賛歌—非核の町に」の初コンサート。早乙女勝
 元さんが作詞し、反核音楽家で知られる寺原伸夫さんが作曲。89, 1, 29
 チェリストで東京芸術大教授の三木敬之氏(広島県深安郡神辺町出身)が、無伴奏チェロのための小品「レクイエム・ヒロシ
 マ」を作曲、北京で初演。89, 5, 5
 広島市の外科医原田東民氏が作詞した合唱曲「世界の命—広島之心」完成。作曲はシンセサイザー奏者の藤掛広幸さん。
 89, 7
 広島市出身の作曲家細川俊夫さん(東京在住)が「ヒロシマ・レクイエム」を創作、新交響楽団が東京・サントリーホールで初演。
 89, 7, 23 未完だった第 3 楽章「夜明け」を加え全楽章を広島交響楽団など初披露。広島国際会議場。92, 2, 3
 原爆で息子を失った父の悲しみを歌った和洋合奏曲「広島鐘」が、旧広島一中原爆死没者慰霊祭で 19 年ぶり演奏。広島市
 の益田玲助さんの 9 首の短歌に木戸全一さんが作曲。89, 7, 23
 歌手の南こうせつさんが広島市で「HIROSIMA 87—97 コン서트」。衛生中継で東京、札幌、仙台、名古屋の 4カ所にも放映。
 89, 8, 5

広島県立賀茂高合唱部が峠三吉の原爆詩「炎」などを定期演奏会で合唱。90, 3, 28

「**広島犠牲者に捧げる哀歌**」と「**チェルノブイリ**」と題する米現代音楽家らのコンパクトディスク(CD)を日本で発売。90, 6, 21

作曲家の団伊玖磨さんが被爆40周年に創作した「**交響曲第6番 HIROSIMA**」がオーストリア・ウィーン交響楽団の演奏でCD化、発売。90, 6, 25

広島県府中市の作曲家神保重喜さんが建物疎開作業で被爆した旧友をしのび追悼歌「**夾竹桃**」を作曲。県歌謡大会で発表へ。90, 7

広島合唱団がカンタータ「**この灯を永遠に**」を合唱。「この灯―」は福岡県星野村の山本達雄さんの「**平和の灯**」を東京の作曲家安藤由布樹さんが作詞、作曲。92, 6, 13

広島市の医師原田東岷氏が作詞した合唱曲「**世界の命＝広島心**」につけるオーケストラ曲が、作曲者の藤掛広幸さんの手で完成。92, 6

故レナード・バーンスタイン氏によって創設されたPMF(パシフィック・ミュージカル・フェスティバル)オーケストラが、広島市で「平和祈念コンサート」。PMFは札幌を舞台にした国際教育音楽祭。バーンスタイン氏の長女ジェミーバーンスタインさん一家もそろそろ。92, 8, 4

アルゼンチンの民族音楽家の故アタウルバ・ユパンキが残した詩「**ヒロシマ…忘れえぬ町**」を。ニューヨーク在住のギタリスト大竹史郎さんが訳詞、作曲。92, 8

東京芸大講師で琴の宮城会大師範、砂崎知子さん(東京都在住)が広島市へ箏独奏曲「**祈りの夏―広島に捧ぐ**」を贈る。93, 8, 5

モンゴルの歌手オユンナさんが広島で、母国で広く歌われている「**ヒロシマの少女の折鶴**」を披露。歌詞はモンゴル語で作詞・作曲者は不詳。オユンナさんも「幼稚園のころから歌っていた」。93, 8, 6

佐々木禎子さんをいたむロシアと日本合作の哀歌「**エレジー・サダコ**」が完成。平和記念公園の「原爆の子の像」前で披露。94, 3, 31

毎年8月5, 6日の「ヒロシマ・ピース・コンサート」は、被爆50周年の1995年で終了。主催者代表の南こうせつさんが市役所で表明。94, 5, 10

広島で被爆死した両親が学童疎開先のわが子へ送った手紙を基に、広島県立保育専門学校教諭で声楽家の小玉好行さんが歌曲を作り、広島市内で上演。94, 6, 2

ポーランドの作曲家クシトフ・ペンデレツキ氏が広島市内で広島交響楽団を指揮して演奏会。34年前に作曲した「**広島犠牲者に捧げる哀歌**」を披露。94, 7, 7

故国で歌い継がれている「**ヒロシマの少女の折鶴**」を日本紹介したモンゴル人気歌手オユンナさんが広島市内でミニコンサート。94, 8, 3

4. 美術（絵画・彫刻・陶芸・書道）

1945年～1954年

東京で最初の「原爆の図」展覧会。50, 2, 8

第一回平和美術展覧会が広島市袋町小で開催。国立東京博物館、大原美術館などの名画 400 点余を展示。48, 8, 5

被爆直後からの広島の復興状況をまとめたグラフ誌「リビング・ヒロシマ」海外版が完成（文・中島健蔵 写真・木村伊兵衛）。
49, 5, 18

銀座・三越 丸善画廊で丸木位里、赤松俊子作「原爆の図」三部作を展示。50, 8, 6

長崎市労働会館で長崎市教委ほか 21 団体が主催。53, 1, 15

第一回平和美術展。52, 6, 2

広島原爆慰霊碑の碑文決定「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」52, 7, 22

彫刻家柳原義達氏平和を願い作品「ラ・パンセ」を広島市に寄付。52, 10, 4

原爆体験画家、福井芳郎画伯「広島原爆絵画展」東京・日本橋の白木屋で開幕。「炸裂後十五分」「学徒」など 27 点。53, 8, 7
「わたつみの像」除幕式、立命館大学。53, 12, 14

彫刻家山本常一氏（新制作会）が作品「平和の鳩」を広島市に寄贈。コンクリート製約 300 キロ。54, 6, 16

1955年～1964年

丸木位里、俊夫妻が水爆をテーマにした「焼津」を東京都美術館で発表。55, 6, 12

広島平和記念館で第一回広島平和美術展開く。55, 8, 4

長崎市浦上平和公園で平和記念像の除幕式。北村西望が長崎市の依頼で五年かけて完成。右手は原爆をしめし、左手は平和を、顔は戦争犠牲者の冥福を祈る。建設費 3000 万円は全額寄付で調達。ブロンズ製。高さ 9,7 メートル、重さ 30 トン。
55, 8, 8

放浪の画家、山下清が原爆慰霊碑と原爆ドームを写生。56, 7, 11

新制作派会員の角浩画伯が広島県庁に 100 号の大作「ねはんの図」を寄贈。56, 8, 4

栃木市富士見町の彫刻師鈴木賢二が原爆被災と核実験の放射能禍を描いた木版絵巻「平和を世界に」を完成。全長 13 メートル。第四回原水爆禁止世界大会参加の外国代表に送る。58, 8, 9

丸木位里、俊夫妻「第二の原爆の図」を高野山の壁画として奉納 59, 3

日本原水協が広島市に「嵐のなかの母小像」を寄贈。本郷新制作の石こう像。59, 8, 2

第三回新協美術展が大阪市天王寺美術館で開幕。広島の福井芳郎画伯の原爆記録画「その翌日」「学徒」など特別出展。
60, 7, 13

日本画家石井草人が被爆直後のヒロシマを描いた作品約 40 点を広島市に寄贈。61, 7

峠三吉の記念碑、平和公園で除幕式。高さ 70 センチ幅 110 厚さ 50。63, 8, 6

ユーゴスラビアの彫刻家コワチ・アレクサンデルがブロンズ製彫刻「平和を願う広島像」を広島市長に贈る。高さ 35 センチ幅
15。63, 8, 20

1965年～1974年

日本美術家平和会議（代表 佐藤忠良）と日本原水協が原爆犠牲者 9 名の肖像画を遺族に贈る。「原爆犠牲者肖像画運動」は朝倉撰、佐藤忠良らが 7 年前から始め、100 人余の肖像を描く 65, 8, 25

「太平洋戦争名画展」中国放送が天満屋広島店で。68, 9, 13

藤田つぎ治「雲の上の空中戦」、須田国太郎「学徒出陣壮行の図」、安田鞞彦「山本五十六元帥像」小磯良平「サイパン島洞窟における南雲部隊」「原爆を追放せよ」（一水会 新海覚雄の彩色石版画）遺族から広島原爆病院に。68, 10, 8

大阪の絵画グループ「レアラ・ロンド」（島常武代表）が大阪北浜の画廊で広島原爆病院の慰問報告会を開く。69, 8, 4

長崎市坂本町、山王神社の片足鳥居の安全性について、長崎市から調査を依頼されていた長大教授が「現在のままで十分安全性があり、補強の必要はない」と発表。移転か現地保存かの鳥居論争に終止符を打つ。70, 7, 15

大阪のアマチュア画家、蔭池武さんが原爆三部作「祈り」「流灯」「祈りⅢ」を三年がかりで完成。引き取り先を探す。70, 7

広島県佐伯郡廿日市町の画家福井芳郎さんの新作「ヒロシマの悲しみ」が完成。「赤でもなく黒でもなく、地球の皮を一枚はがした色」「あの色だけが頭のなかにあった」。71, 1

愛知県豊川市の彫金作家後藤秋男さんが原爆投下直後の逃げ惑う人々の姿を描いた銅製の彫金壁画を原爆資料館に寄贈。
71, 8, 4

パリ在住の西村計雄画伯の大作「ヒロシマ」が銀座の東京セントラル美術館で披露。原爆の炸裂で太陽も裂ける佐間を描いた
300号。「文化を尊ぶフランスが核実験を繰り返す現状にたまりかね、日本人としてヒロシマを描いた」。72, 3, 1。8, 4 広
島市に寄贈

広島で被爆した大阪の仏師高島陽雲さん(大阪市大正区)が平和への祈りを込めた油絵「爆発瞬間の図」(100号)が完成、公
開。長崎市の原爆資料館に展示。3部作の前2作は大阪府庁、広島市の原爆資料館に展示。72, 6, 24

1975年～1984年

広島市職員、四国五郎さんが被爆30周年を前にスケッチ集「広島百橋」を出版。同市内と合併町の136本の橋をスケッチ、原
爆の惨状や復旧のエッセイも。75, 6

被爆の惨状を描いた絵画集「劫火を見た」がNHK出版協会から発刊。「市民の手で原爆の絵を残そう」とのNHK中国本部の呼
びかけで寄せられた絵のうち104点を収録。75, 7, 10

日本書道教育学会評議員の吉田芳香さんが自らの作品「原爆許すまじ」を平和記念館に寄贈。76, 3

広島出身のアマチュア画家、故土井晩鐘の「原爆記録画展」が、広島市基町の広島センター街で始まる。「炸裂」「地獄の町」
など76点。76, 8, 1

広島県佐伯郡廿日市町廿日市中学校の二年生146人がアルミ板の被爆壁画を完成。77, 1, 24

丸木位里、俊夫妻がユダヤ人虐殺をテーマにした大作「アウシュビッツ」を完成。77, 2

無名の被爆者たちが描いた原爆画集「原爆の絵—HIROSIMA」(童心社)刊行。77, 6

平和を求める広島をテーマにしたコイの像「飛躍」が広島市の中央公園に完成。北村西望の制作。77, 10, 23

被爆直後の惨状を描いた水彩画29点が長崎国際文化会館の原爆資料センターに常設展示。パリ在住の山田栄二画伯が
1945年8月10日長崎入りしスケッチ。78, 4

染色工芸で「ヒロシマ」を訴え続ける広島市の岩村麦踏子さんが「ヒロシマ・シリーズ展」。79, 7

大桐国光中国短大教授が広島平和美術展に出品した彫刻「ヒロシマの苦しみ」を平和記念館に寄贈。イタリアのダンテ国際展
の入賞作を鋳型取り。79, 9

平山郁夫画伯が原爆をテーマにした初の作品「広島生麥図」を制作、院展に出品。広島修道中3年のとき広島兵器廠に動員
中に被爆。今年7月、原爆慰霊碑に参り、残照に燃える広島の空があの日を衝撃的に浮かびあがらせ作品に。79, 11

岡山市在住のアマチュア画家保田真一さんが、被爆直後の広島を描いたデッサンや水彩画4点を広島市の平和記念館に寄
贈。80, 8

熊本県菊池市出身の吉野正明さんが広島原爆病院に自作の絵「古城迎春」を贈る。81, 3, 4

洋画家の矢田健爾さん(神奈川県藤沢市)が広島原爆病院に自作の「裏磐梯中瀬沼の秋」を送る。81, 5, 21

京都府福知山市の画家近森巖雄さんが広島平和記念館に原爆ドームの絵を寄贈。81, 6, 18

絵画、彫刻、漫画家らで組織する「表現の自由を守る美術家の会」代表が、鈴木首相に核廃絶を求める要請書と賛同者2,506
名の署名を提出。82, 5, 27

広島国際文化財団と日本グラフィックデザイナー協会が共同制作した「ヒロシマ・アピールズ・ポスター」第1作が完成。同協
会会長、亀倉雄策氏の作品。83, 6, 9

津山市の中川素行さん、故有吉正男さんが1948年ごろ描いた油絵の原爆ドームを広島平和文化センターに寄贈。84, 12, 6

1985年～1994年

日本グラフィックデザイナー協会が、核戦争から地球を救うための反核ポスター7点を米反核グループに発送。6月の核戦争
防止国際医師会議(IPPNW)ブタペスト会議に展示し、各国で巡回展。85, 3, 15

米国版「ヒロシマ・アピールズ・ポスター」が完成。広島国際文化財団などが手がける反核ポスター運動に共感した米グラフィ
ック会の第一人者、ミルトン・グレイザーさんが制作。85, 4

米子市のちぎり絵作家亀井健三さんが原爆をテーマにした3部作を広島市に寄贈。第9回日仏現代美術展に入選した大作
「白い影」「劫火」「黒い雨」。85, 5, 18

「長崎原爆紙芝居」の第1, 4, 5巻が完成発売へ。機関の2, 3巻とあわせ、全5巻が完結。85, 6

長崎市の平和公園に建てられた中国の平和モニュメント「**乙女の像**」の除幕式。中国の著名な彫刻家 4 人が一年余をかけて制作。北京市房山県産の大理石製で純白。高さ 3, 2 メートル、重さ 27 トン。

乙女が岩に手を広げてもたれかかり、平和のシンボル・ハトと戯れるデザイン。85, 7, 16

イタリアの画家バルバラ・ビリエリさんが手形で製作した「**平和の樹**」を広島市に寄贈。86, 8, 15

広島 YMCA で、非核憲法の存続問題で揺れるベラウ(パラオ)共和国の子どもたちの「平和の絵」展開く。「ピース・ボートひろしま」が現地訪問で集めた 40 点。87, 2, 1

神奈川県藤沢市の洋画家矢田健爾が広島原爆病院に自作の「**鎮守の森**」を贈る。87, 6, 4

二科会常任理事だった洋画家の故井上覚三さん(大阪府豊中市)が、反核の願いを込めて 1956 年に描いた「**地球は終わりぬ**」を、妻の英子さんが広島市に寄贈。87, 7, 29

広島信貴山洗心会(日吉登美夫会長)が京仏師の松本明慶さんの作品「**合掌童子像**」を広島市に寄贈。広島被爆のイチョウの木に合掌する子どもを彫刻。87, 1, 7

札幌市の版画家岡部昌生さんが、広島の道を紙に刷りとる作品を制作。「広島の路上には、人間の生と死が濃縮」。広島市現代美術館に展示へ。88, 8

全国和紙ちぎり絵サークルを主宰する米子市の亀井健三さんが自作のちぎり絵 5, 000 セットを広島市に贈る。「**黒い雨**」「**白い影**」など原爆 3 部作も。88, 11, 26

東京八王子市在住の火履き画家笠井始さんが被爆 2 ヶ月後に描いたスケッチと 949 年に発表した油絵「**ヒロシマ! あの朝**」を広島平和文化センターに贈る。88, 12, 6

呉市の画家渡部茂さんが被爆の惨状を描いた油絵「**生死とのたたかい**」を完成。広島平和記念館に寄贈へ。呉海軍工廠の救援隊員として被爆 4 日後に広島市に入った光景を描く。89, 7

長崎被爆の父親を持つニューヨーク在住の画家飯塚国雄さんが広島と長崎に原爆をテーマにした作品を寄贈へ。93, 10

日本画家平山郁夫さんが自らの被爆体験を基に描いた「**広島生変図**」を陶製の壁画にして平和記念公園に建設中の原爆資料館東館に展示しようと、有志による「製作会」が発足。カンパ募る。94, 2, 9

広島市出身の作家、故梶山季之の遺志を継いだ「梶山季之基金」が、広島の画家新延輝雄さんが被爆 50 年を記念して描いた「**原爆忌はるかに**」を市に寄贈。原爆資料館東館で除幕式。94, 11, 28

1960 年代後半、メキシコで制作され、行方不明になっていた岡本太郎の巨大壁画「**明日の神話**」の修復作業が愛媛県内で完了し報道陣に公開された。アメリカのビキニ水爆実験で被爆したマグロ漁船「第五福竜丸」などをモチーフにした縦 5, 5 メートル、横 30 メートルの巨大な壁画。2003 年メキシコ市郊外の資材置き場で土ぼこりで汚れ、一部かけた状態で見つかり、2005 年 7 月から修復作業が進められていたもの。近く一般公開される。06, 6, 7

5. 演劇

1955年～1964年

大阪市職員組合演劇研究会が「黒い雨」を上演。作 鎌田康平。60, 2

劇団、石巻市民劇場が「ピカドン先生」上演。作 いしじま・つねお。60, 2

東京芸術座が「恐怖」上演。作 岡田豊。60, 8

劇団民芸が「泰山木の木の下で」を上演。作 小山裕士 東京・砂防会館。63, 5, 22

1965年～1974年

「ザ・パイロット」公演。東京・俳優座劇場。65, 4, 5 原爆投下機のパイロットの苦悩を描いた「薔薇よりも孔雀だ」劇団文芸座公演 小山祐士作 演出木村光一。瀬戸内海の美しい光景のなかで、戦争、原爆の影を引きずり、傷つき孤独になる人々を描く。68, 1, 9

「ヒロシマについての涙について」劇団三十人会公演。東京・紀伊国屋ホール。ふじたあさや作 秋浜悟史演出。68, 5, 14

「ゼロの記録」劇団民芸。大橋喜一作、早川昭二演出 原爆医療に打ち込む開業医を主役に 68, 5, 24

「ヒロシマについての涙について」桐朋短大演劇科が東京・調布の同学園で上演 70, 7, 10

劇団「世代」が東京・俳優座劇場で創作劇「原子爆弾」(作・浜田善弥 三幕)を上演。70, 8, 1

神戸市の舞踏家貞松融さんが原爆バレエ「つるのとぶ日」を神戸・国際会館で上演。広島童話作家グループ「子供の家」会員山下夕美子さんの作品を脚色したもの。70, 8, 2

広島労演と広島演劇サークル協議会が、韓国・朝鮮人被爆者の現状を取り上げた演劇「ひろしまの冬」を広島市公会堂で合同公演。70, 12, 9

紀伊国屋ホールで劇団「民芸」が「銀河鉄道の恋人たち」を公演。大橋喜一作、宇野重吉演出。71, 5, 27

劇団民芸が広島市公会堂で「銀河鉄道の恋人たち」を公演。原爆に引き裂かれた広島の恋人たちの姿を幻想的に描く。73, 2, 12

東京のパントマイムグループ「詩劇ゼミナール」(大田順造主宰)が原民喜の原爆詩を丸の内の東商ホールで舞台詩「広島雲」として公演。73, 6, 4

1975年～1984年

原爆詩人の峠三吉を主人公に広島の戦後を描く劇団「民芸」の演劇「河」の広島縦断公演が広島県双三郡三良坂町ではじまる。75, 7, 2

劇団民芸が「灰の街のアメリカ紳士」(大橋喜一作、米倉齊加年演出)を公演へ。大橋氏は「ゼロの記録」「銀河鉄道の恋人たち」に続く原爆作品の三作目。被爆後の広島を訪れた米軍に壇と日本医師団の対立を描きながら原爆投下を告発。79, 2

ソ連カザフ共和国の首都アルマアタで、広島の悲劇をテーマにしたガジザ・ジュバノワ作曲のバレエ「竜の火」初演。80, 3

新宿の若者の劇団「世代」が朝鮮人被爆者らの被爆二世の苦悩を描く「広島冬」を東京で上演。81. 9. 18

被爆に負けずスペイン舞踊のトップダンサーとなった広島県甲山町出身の島みち子さん(本名、小林裕子)が東横劇場で、創作舞踊「広島一無の悲しみから」を発表。島さんは広島赤十字病院で被爆 81, 11, 4

歌舞伎、文楽、能、新劇など演劇、舞台関係者が「平和への演劇人の訴え」を発表。木下順二、内村直也、川口松太郎さんらが発起人で88人が賛同。82, 3, 15

「82年・平和のためのヒロシマ行動」で、童話「おこりじぞう」(山口勇子作)の紙芝居を上演。広島市在住の画家四国五郎さんが大型キャンバス16コマに描き、俳優の沼田曜一さんが語る。82, 3, 21

広島の書道グループ「現代詩文書広島研究会」が広島県立美術館で書道展「ヒロシマの心」を開催。書で反核、平和を訴える初の試み。82, 5, 5

一月に亡くなった創作舞踏家古月澄子さんのレパートリーだった反核バレエ「星ひとつまたたきて一ノモア・ヒロシマズ」が、娘の公子さんや門下生らによって28年ぶりに再演。83, 8, 1

原爆詩人峠三吉氏とその仲間の青春群像を描いた劇団「月曜会」の創作劇「河」が、9年ぶりに広島市で上演通算7回目。83, 8, 2

劇団月曜会が被爆20年後の広島を舞台にした推理劇「閃光の遺産～浅野泉宅殺人事件」を広島で上演。三好徹氏の作品をもとに槌屋清氏が脚本、演出。83, 1, 25

東京・俳優座劇場で一人芝居「**広島**の女」開演。広島市出身の村井志摩子さんの自作、演出作品。84, 12, 7

1985年～1994年

劇団はぐるま座の公演「**夏の約束**」広島巡回公演が続く。原爆詩人峠三吉の詩などを題材にした被爆40周年の創作音楽詩劇。
85, 5

劇団地人会の朗読劇「**この子たちの夏—1945・ヒロシマ・ナガサキ**」全国公演はじまる。子供を原爆で奪われた母親の悲しみがテーマ。女優6人が無償で朗読。85, 7, 5

中国地方巡演が米子市を皮切りに始まる。木村光一作、演出。87, 7, 18

「第三劇団」(鴻上尚史さん主宰)が東京・本田劇場で核戦争後の人間をテーマにした「**スワン・ソングが聴える場所**」を上演。
「**明日のような夕日をつれて**」「**宇宙で眠るための方法について**」に次ぐ3部作終結。86, 6

カナダ劇作家の核告発劇「**千羽鶴**」を文化座が広島で上演。女優の佐々木愛さんがプロデュース。86, 6, 12

劇作家村井志摩子さんの反核一人芝居第三部「**広島**の女」を英語劇にした「**A Shower of Leaflets**」(ビラはふる)が広島市で上演。
87, 8, 5

広島市で流派を超えて「反核、平和のための能と狂言の会」。能の観世栄夫、狂言の野村万作さんら6人でつくる申楽乃座が出演。
87, 8, 6

広島手話劇団「**河**」が、ろうあ被爆者の体験をもとにした手話劇「**光の河**」を上演。88, 1, 15

広島市の劇団「月曜会」が、峠三吉氏没後35年と戯曲家土屋清氏(1987年11月死去)の追悼を兼ね、土屋氏の戯曲「**河**」を上演。
88, 6, 22

在韓被爆者玄正子さんの半生を大阪府立松原高校の生徒らが「**イルボンサラム(日本人へ)ー心の叫び**」と題し劇化、広島で上演。
88, 7, 23

1985年から7, 8月に全国を巡礼し広島、長崎の被爆体験を語りつく朗読劇「**この子たちの夏—1945・ヒロシマ ナガサキ**」(地人会公演)が7月中旬の三重・津リージョンお城ホールで100回公演。88, 7

原爆で父を失った声優堀洵子さん(東京都在住)が、神奈川県綾瀬市で自作の一人芝居を上演。父の利兵衛さんは美祢市で軍医召集を受け被爆死。89, 7, 30

広島の手話劇団「**河**」(杉野信晶団長)が、ろう被爆者をモデルにした「**青い空—ほほえみをいつまでも**」を上演。手話ボランティアノ広島市の仲川文江さんがろう被爆者4人の体験をもとにシナリオを書く。89, 7, 30

生協ひろしまなど主催の「89 ヒロシマ虹のひろば」で、被爆者4人の証言による構成劇「**いのちあるかぎり**」が上演。劇団「銅鑼」の大峰順二さんが演出。89, 8, 5

広島国際会議場で第4回「市民平和の集い」。ノンフィクション作家の吉原公一郎さんが脚本を書いた「**榎の記は甦った**」を劇団民芸の日出ともゑさんと伊藤孝雄さんが琵琶を伴奏に語る。89, 10, 30

大阪府在住の女優、新屋英子さんが韓国の釜山、大邱、ソウルで一人芝居「**チョゴリを着た被爆者**」を公演。89, 12, 14

大衆演劇の「劇団むらさき」が、被爆死した中学生と母の悲しみをテーマにした「**まっ黒なおべんとう**」を広島市内で公演。
90, 3, 25

広島地区高校演劇連盟20校の部員が被爆電車をテーマに「**夜空を駆けろ！ チンチン電車**」を発表。90, 3, 26

テレビアニメ「忍者ハットリくん」などの声優堀洵子さんが、原爆をテーマにした一人芝居「**朝ちゃん**」を広島市中区の平和記念聖堂や被爆死した医師の父が運ばれた三次市で連続上演を始める。90, 8, 4

広島市内の手話集団「**河**」(杉野信晶団長)が、視覚障害者の被爆体験をテーマにした創作劇「**一番星みつけた**」を初公演。
91, 7, 21

原爆悲話を基に作った演劇「**愛と死の傷痕 伸ちゃんの三輪車**」完成、広島清水劇場で試演会。91, 10, 12

広島安佐北区の亀崎小学校PTAの朗読サークル「きょうちくとう」が原爆朗読劇「**このたちの夏 1945 ヒロシマ**」を同校で上演。
92, 3, 16

広島市で被爆、全滅した移動演劇隊「さくら隊」の悲劇を俳優の丸山由利亜さんが「**さくら隊レクイエムその1**」として上演。
92, 8, 4

米子市で朗読ボランティアグループ「火曜の会」(南家教子代表)が朗読コンサート「**星は見ている—原爆の日によせて**」。

92, 8, 6

笠岡市で、おかやまコープ井笠地域平和部会が主催し朗読劇「この子たちの夏」を上演。92, 8, 7

東京で劇作家村井志摩子さんの「広島の子」シリーズ第6作「日本人形・沈黙」上演。92, 10, 27

広島平和文化センターが 7 回目の「広島市民平和の集い」。大阪の大衆演劇団「むらさき」が「愛と死の傷痕―伸ちゃんの三輪車」を上演。92, 10, 27

原爆資料館の「人影の石」をテーマにした一人オペラ「のこした影」が廿日市市中央公民館で上演。原作は同市内の主婦山本泰子さんの童話集「つるのとぶ日」。大阪の劇作家かたおか・しろうさんが脚本を書き、神戸大の中村茂隆教授が作曲。関西二期会の岡田征土郎さんが主演。93, 3, 14

松江市で主婦らが原爆をテーマにした朗読劇「この子たちの夏」を上演。93, 8, 1

岡山県浅口郡里庄町の主婦らで作る人形劇グループが被爆朗読劇「この子たちの夏」を同町で上演。93, 8, 6

原爆問題を主題にした「広島の子」シリーズの上演を続けている広島市出身の村井志摩子さんの第 7 作「螺旋階段」が東京で初演。93, 8, 6

第 8 回広島市民平和のつどい(広島平和文化センター主催)で、村井志摩子さんの創作劇「歌物語～たつやくんの夏」上演。93, 10, 27

劇作家の井上ひさしさんが、原爆をテーマにした演劇に取り組む。第1作の「父と暮らせば」が都内で上演中。計5部作を発表する予定。94, 9, 6

大阪の「反核・平和のための能と狂言の会」で公演されたもの

第一回	1988, 8, 6	能 藤戸	狂言 宗論	
第二回	1990, 7, 14	能 清経	狂言 佐渡狐	(7, 15 和歌山)
第三回	1992, 10, 20	能 善知鳥	狂言 磁石	(10, 19 和歌山)
第四回	1994, 10, 20	能 羽衣 安達原	狂言 鐘の音	
第五回	1996, 5, 22	能 采女	狂言 二人大名	
第六回	1998, 11, 14	能 望恨歌	狂言 惟盛	
第七回	2000, 7, 8	能 隅田川	狂言 佐渡狐	
第八回	2002, 9, 20	能 自然居士	狂言 縄綯	
第九回	2004, 11, 23	能 清経	狂言 昆布売	
第十回	2006, 8, 29	能 原爆忌		

広島県呉市在住の緩急車雲助師による講談「まっ黒なお弁当」「ヒロシマの河は黒かった」「石に影を焼き付けた男」。00.

6. 宗教

1945年～1954年

長崎市浦上のカトリック信徒、浦上天主堂跡で原爆犠牲者の合同慰霊祭。45, 11, 23

日本キリスト教団全国キリスト教徒大会、戦争責任を痛感し、反省とざんげと改悛を表白。46, 6, 9

全日本宗教者平和会議開催。宗教平和宣言採択。47, 5, 5

「平和と宗教」座談会を広島商工会議所で開催。浜井広島市長、仏教タイムス社、夕刊ひろしま代表らが出席。「原爆を人類が繰り返さないよう過去への反省と新しい世界平和への発展を祈願したい」「パールハーバーと広島との交歓供養」などの意見がでる。

48, 7, 10

キリスト教平和運動協議会結成、平和憲法擁護を決議。52, 3, 22

東京・築地本願寺で第二回世界仏教徒会議。仏舎利の広島安置を決める。52, 9, 30

全日本仏教会議が高野山で開幕。世界平和広島仏舎利塔建設推進を決議。52, 8, 27

日印親善仏教使節団がインドのネール首相から長崎市に贈られた「仏舎利」とともに長崎へ。54, 4, 5

1955年～1964年

ローマ法王ピオ十二世が原子兵器競争の中止を呼びかけ。56, 4, 1

第四回世界仏教徒大会(カトマンズ)世界平和への決議を採択。「各国の政治家が平和五原則を守って世界平和を推進すること、国連がいかなる侵略をもやめさせること、各国政府がすべての核兵器使用を禁止することを要望する」。56, 11, 21

ローマ法王ヨハネ二十三世が「地上に平和を」と題する全世界のカトリック司教への回状を公表。63, 4, 10

仏教、キリスト教、大本教(人類愛善会)などで作る日本宗教者平和協議会(大西良慶会長)が原水禁運動の統一を呼びかける声明を発表。63, 4, 12

日本宗教者平和協議会が日本原水協支持を決める。64, 5, 4

1965年～1974年

広島市富士見町の万徳寺に「八・六の鐘」が完成。68, 11, 3 毎朝、午前八時十五分に打ち鳴らす

日本宗教者平和協議会の壬生照順理事長らが美濃部亮吉東京都知事と都議会各党に8月6日、9日の原爆投下時間に黙祷を申し入れ。69, 7, 28

原爆で破壊され、長崎市の浦上天主堂の敷地に埋もれていた鐘楼ドームの保存工事完成、除幕式。71, 6, 24

創価学会の池田大作会長が第35回本部総会で「戦争絶滅・平和確立・人間尊重を目標とする宗教者の立場から国内外で平和運動を繰り広げていく」方針を打ち出す。72, 11, 2

1975年～1984年

日本時間の8月6日に合わせ、反戦運動家として知られるフィリップ・ベリガン神父が主催し、ワシントンの国防省前で12人が抗議の通夜。原爆のキノコ雲や原爆反対のプラカードなどをかかひげる。76, 8, 5

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世が広島入り。原爆慰霊碑に参拝、約2万5,000人の信者が見守る中、平和アピールを日本語をはじめ九ヶ国語で発表。原爆資料館を見学、市公会堂で「技術・社会そして平和」と題し講演。6時間の滞在の後、長崎へ。81, 2, 25

浄土真宗の東本願寺派山陽教区が「非核非戦のつどい」を開会、約100人が参加。同宗門の平和活動は初めて。82, 3, 2

浄土真宗の東本願寺派安芸教区が広島市の県立体育館で「安芸門徒総結集大会」、約8,000人が参加。同派の平和運動は初めて。82, 3, 6

インドで貧民救済活動に献身し、ノーベル平和賞を受けたカトリック修道女、マザーテレサ(71)は、長崎原爆資料館を見学したのち爆心地で平和の祈りを捧げた。82, 4, 26

1981年2月に広島から世界に向け平和アピールをしたローマ法王ヨハネ・パウロ二世の平和アピール記念碑が広島平和記念館で除幕。83, 2, 25

1985年～1994年

金光教が広島市で「被爆40周年平和祈願広島集会」。約1,000人が参加。85, 7, 28

浄土真宗本願寺派が大谷光真門主を迎え、原爆供養塔前で被爆40周年追悼法要。3,000人が参列。85, 8, 5

宗派を超えた「第 1 回広島、長崎宗教者平和会議」が長崎市で開催。「2001 年を人類平和暦元年にする」などアピール。
86, 2, 18

第2回広島、長崎宗教者平和会議が広島市で開会。神道、仏教、キリスト教などの代表約 40 人が参加。「宗派間のエゴを克服し、幅広い平和運動を広げよう」とのアピール採択。87, 2, 12

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世の「ヒロシマ平和アピール」が、事前配布資料と異なったため 2 つのアピールが存在。法王自身の言葉「戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です」が、事前配布資料には「戦争は人間の生命を奪います。戦争は死そのものです」などとあり、広島平和記念館の「ローマ法王平和アピール碑」は実際と異なる事前配布の言葉を刻む。広島市の月下美紀さんが指摘。87, 4, 1

四国霊場八十八番札所で結願寺の香川県長尾町の**大窪寺に福岡県八女郡星野村の「原爆の火」**を永久保存へ。原爆の火平和塔の建立式。88, 10, 24

「平和を誓う火」として東京・上野の東照宮に原爆の火をともし続けようと、「上野東照宮に広島・長崎の火を灯す会」の発起人会が同神社で開く。作家の山口勇子さん、東友会の伊東社会長らが出席。89, 2, 13

奈良市の般若寺が、境内に「原爆の火」をともし続ける「平和の塔」の建立へ。89, 4

※各宗教・宗派について、ゴシック体で表現をした。宗教人の個人については、ノーベル平和賞を受賞した特定の個人のみゴシック体で表現。